



613-001917 Rev.A 150303

CentreCOM® x930シリーズ 取扱説明書



ユニファイドマネージメント・スタックابلスイッチ

CentreCOM® x930シリーズ

取扱説明書

CentreCOM® x930 シリーズ

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んだ使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源ケーブル・プラグを抜き、弊社サポートセンターまたは販売店にご連絡ください。



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所注意

取り付け・取り外しのときはコネクター・回路部分にさわらない

感電の原因となります。

稼働中に周辺機器の取り付け・取り外し（ホットスワップ）に対応した機器の場合でも、コネクターの接点部分・回路部分にさわらないように注意して作業してください。



感電注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。

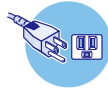
製品の取扱説明書に記載の電圧で正しくお使いください。なお、AC電源製品に付属の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい配線器具を使用する

本製品に付属または取扱説明書に記載のない電源ケーブルや電源アダプター、電源コンセントの使用は火災や感電の原因となります。



正しい器具

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源ケーブル・プラグを抜く

感電の原因となります。



ケーブルを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

ケーブル類やプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントなどから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に傷害を被る場合があります。

光ファイバーインターフェースを持つ製品をお使いの場合は、光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光のあたる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、シュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはいねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因となります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書きに従ってください）

はじめに

このたびは、CentreCOM x930シリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM x930シリーズは、10/100/1000BASE-TポートとSFP+スロットを装備し、高さを1Uサイズに抑えたユニファイドマネージメント・スタックプルスイッチです。AT-x930-28GTX/AT-x930-28GPXは10/100/1000BASE-Tポートを24ポートとSFP+スロットを4スロット装備、AT-x930-52GTX/AT-x930-52GPXは10/100/1000BASE-Tポートを48ポートとSFP+スロットを4スロット装備しています。

このうち、AT-x930-28GPXとAT-x930-52GPXの10/100/1000BASE-Tポートは、IEEE 802.3at準拠のPoE (Power over Ethernet) 給電機能に対応しています。

SFP+スロットはオプション (別売) のSFP/SFP+モジュールの追加により、多様な光ポートの実装が可能です。

また、複数のスイッチを本体のSFP+スロットまたはオプション (別売) の拡張モジュールを介して接続することにより、仮想的に1台のスイッチとして動作させることができます。

本製品搭載のファームウェア「AlliedWare Plus (AW+)」は、各機能がモジュールとして分割されており、単一の障害が与える影響範囲を最小限に抑えることができるシステムになっています。これにより、旧来の方式の製品と比べシステム全体の可用性が格段に高まります。

また、業界標準のコマンド体系に準拠し、他社製品からの移行においても、エンジニアの教育にかかる時間と経費を大幅に削減することができます。

Telnet、コンソールポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースはコマンドライン形式をサポートしています。また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良 (機能拡張、不具合修正など) のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手して頂けますが、ファームウェアバージョンアップのご利用には保守契約へのご加入が必要です。

弊社ホームページ内の保守契約者向けページでは、各バージョンのリリースノートにて注意事項や最新情報をご案内していますので、掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

保守契約の詳細につきましては、本製品をご購入いただいた代理店にご相談ください。

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の3部で構成されています。

各マニュアルは弊社ホームページに掲載しておりますので、よくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。

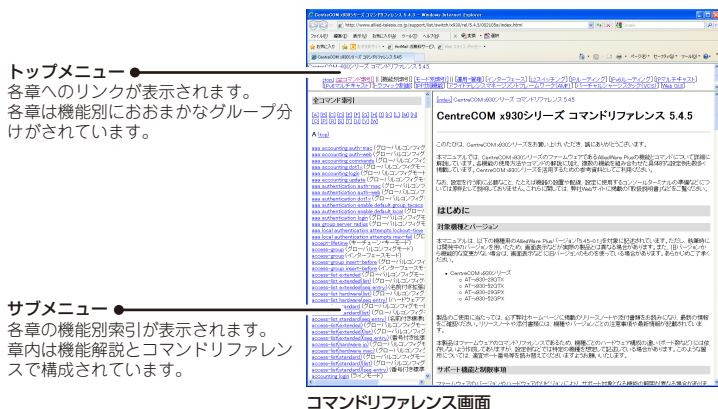
<http://www.allied-teselis.co.jp/>

○ 取扱説明書(本書)

本製品のご使用にあたり、最初に必要な準備や設置のしかたについて説明しています。設置や接続を行う際の注意事項も記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

○ コマンドリファレンス

本製品で使用できるすべての機能とコマンドについて詳しく説明しています。各機能の使用手法やコマンドの解説に加え、具体的な設定例も数多く掲載しています。



○ リリースノート(弊社ホームページ内保守契約者向けページに掲載)





ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。リリースノートは弊社ホームページ内の保守契約者向けページに掲載されています。

はじめに


表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っているると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

本書は、以下の製品を対象に記述されています。

- AT-x930-28GTX (10/100/1000BASE-Tポート×24ポート・SFP+スロット×4)
- AT-x930-52GTX (10/100/1000BASE-Tポート×48ポート・SFP+スロット×4)
- AT-x930-28GPX (10/100/1000BASE-T PoEポート×24ポート・SFP+スロット×4)
- AT-x930-52GPX (10/100/1000BASE-T PoEポート×48ポート・SFP+スロット×4)

電源ユニット

- AT-PWR250-70 (250W対応 AC電源ユニット)
- AT-PWR250-80 (250W対応 DC電源ユニット)
- AT-PWR800-70 (800W対応 AC電源ユニット)
- AT-PWR1200-70 (1200W対応 AC電源ユニット)

ファンモジュール

- AT-FAN09

ファンアダプター

- AT-FAN09ADP

拡張モジュール

- AT-StackQS (QSFP+スロット×2)

「本製品」「x930シリーズ」と表記している場合は、特に記載がないかぎり、AT-x930-28GTX、AT-x930-52GTX、AT-x930-28GPX、AT-x930-52GPXを意味します。「本PoE製品」と表記している場合は、特に記載がない限り、AT-x930-28GPX、AT-x930-52GPXの2製品を意味します。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために.....	4
はじめに.....	6
最新のファームウェアについて.....	6
マニュアルの構成.....	7
表記について.....	8
目次.....	10
1 お使いになる前に.....	13
1.1 概要.....	14
特長.....	14
オプション(別売).....	15
1.2 梱包内容.....	17
電源ユニット.....	18
拡張モジュール.....	18
スペアファンモジュール.....	18
スペアファンアダプター.....	18
1.3 各部の名称と働き.....	19
前面.....	19
背面.....	22
側面.....	23
拡張モジュール.....	24
ファンモジュール.....	25
ファンアダプター.....	26
電源ユニット.....	27
1.4 LED表示.....	30
ポートLED.....	30
SFP+スロットLED.....	31
マネージメントポートLED.....	31
ステータスLED.....	32
QSFP+スロットLED.....	33
電源ユニットLED.....	33
2 設置と接続.....	35
2.1 設置方法を確認する.....	36
設置するときの注意.....	36
2.2 ゴム足を取り付ける.....	37

2.3	19インチラックに取り付ける	38
2.4	オプションを利用して設置する	40
2.5	電源ユニットを取り付ける	41
	電源ユニットの取り付け	43
	電源ユニットの取りはずし	44
2.6	ファンモジュールを取り付ける	45
	スペアファンモジュールの取り付けかた	46
2.7	拡張モジュールを取り付ける	47
2.8	SFP/SFP+を取り付ける	50
	SFP/SFP+の取り付けかた	51
2.9	QSFP+を取り付ける	55
	QSFP+の取り付けかた	56
2.10	ネットワーク機器を接続する	59
	ケーブル	59
	接続のしかた	61
2.11	PoE対応の受電機器を接続する	62
	本製品のPoE給電仕様	62
	ケーブル	65
	接続のしかた	65
2.12	スタック接続をする	66
	対応モジュールとケーブル	66
	スタックポートの選択	67
	接続のしかた	67
2.13	コンソールを接続する	69
	コンソール	69
	ケーブル	69
	接続のしかた	70
2.14	電源を入れる	71
	AC電源を使用する場合	71
	DC電源を使用する場合	74
	電源を二重化する場合	76
2.15	設定の準備	77
	コンソールターミナルを設定する	77

目次

本製品を起動する	78
2.16 操作の流れ	80
3 付 録	85
3.1 困ったときに	86
自己診断テストの結果を確認する	86
LED表示を確認する	87
ログを確認する	88
トラブル例	90
3.2 仕 様	95
コネクタ・ケーブル仕様	95
本製品の仕様	98
オプション製品の仕様	101
3.3 製品保証	103
保証と修理	103
ファームウェアのバージョンアップ	103
保守契約	103

1

お使いになる前に

この章では、本製品の概要、梱包内容、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 概要

CentreCOM x930シリーズの概要について説明します。

本製品をスイッチとして機能させるために最低限必要となるコンポーネントは次のとおりです。

- シャーシ×1
- 電源ユニット×1
- ファンモジュール(本製品に標準装備)×1
- ファンアダプター(本製品に標準装備)または拡張モジュール×1

特長

- (AT-x930-28GTX・AT-x930-28GPX) 10/100/1000BASE-Tポートを24ポート装備。AT-x930-28GPXは全10/100/1000BASE-TポートIEEE 802.3at・IEEE 802.3af準拠のPoE給電に対応。
- (AT-x930-52GTX・AT-x930-52GPX) 10/100/1000BASE-Tポートを48ポート装備。AT-x930-52GPXは10/100/1000BASE-TポートIEEE 802.3at・IEEE 802.3af準拠のPoE給電に対応。
- SFP+スロットを4スロット装備。
- 同梱の19インチラックマウントキットでEIA標準の19インチラックに取り付け可能。
- 本体のSFP+スロットまたは拡張モジュールを利用して、VCS機能によるスタック接続が可能

オプション (別売)

- AC電源ユニット
 - AT-PWR250-70
 - AT-PWR800-70
 - AT-PWR1200-70
- DC電源ユニット
 - AT-PWR250-80
- スペアファンモジュール
 - AT-FAN09
- スペアファンアダプター
 - AT-FAN09ADP
- SFPモジュールによりポートの拡張が可能
 - AT-SPTXa 1000BASE-T (RJ-45)
 - AT-SPSX 1000BASE-SX (2連LC)
 - AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2連LC)
 - AT-SPLX10 1000BASE-LX (2連LC)
 - AT-SPLX40 1000M SMF (40km) (2連LC)
 - AT-SPZX80 1000M SMF (80km) (2連LC)
 - AT-SPBDM-A・AT-SPBDM-B 1000M MMF (550m) (LC)
 - AT-SPBD10-13・AT-SPBD10-14 1000BASE-BX10 (LC)
 - AT-SPBD40-13/I・AT-SPBD40-14/I 1000M SMF (20km) (LC)
 - AT-SPBD80-A・AT-SPBD80-B 1000M SMF (80km) (LC)

※ AT-SPTXaによる10/100Mbps通信は未サポート。
- SFP+モジュールにより10Gポートの拡張が可能
 - AT-SP10SR 10GBASE-SR (2連LC)
 - AT-SP10LR 10GBASE-LR (2連LC)
 - AT-SP10ER40/I 10GBASE-ER (2連LC)
 - AT-SP10TW1 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
 - AT-SP10TW3 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
 - AT-SP10TW7 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m)
- 拡張モジュールによりスタックポートの増設が可能
 - AT-StackQS QSFP+スロット×2
- スタックモジュールにより本体SFP+スロットを利用したスタック接続が可能
 - AT-StackXS/1.0 カッパースタックモジュール (1m)
 - AT-StackOP/0.3 ファイバースタックモジュール (300m)
 - AT-SP10SR 10GBASE-SR (2連LC)
 - AT-StackOP/9.0 ファイバースタックモジュール (9km)
 - AT-SP10LR 10GBASE-LR (2連LC)
 - AT-SP10ER40/I 10GBASE-ER (2連LC)

1.1 概要

- AT-StackQSとスタックモジュールを用いることで、広帯域スタック接続が可能
AT-QSFP1CU QSFP+ダイレクトアタッチケーブル(1m)
- スライドレール型の19インチラックマウントキットで保守作業がしやすい位置への設置が可能
AT-RKMT-SL01
- L字型コネクタ電源ケーブルにより、奥行きを取らずに設置可能(AT-PWR250-70・AT-PWR800-70のみ)
AT-PWRCBL-J01R
- 専用のマネージメントケーブルキット(コンソールケーブル 3本セット)でコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- フィーチャーライセンスによりさらに高度な機能の追加が可能
AT-x930-FL01 x930シリーズ用プレミアムライセンス
AT-x930-FL02/20 x930シリーズ用AMFマスターライセンス(20メンバー)
AT-x930-FL06/20 x930シリーズ用ワイヤレスマネージャーライセンス(20AP)
AT-x930-FL06/40 x930シリーズ用ワイヤレスマネージャーライセンス(40AP)

1.2 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。

製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、製品がおさめられていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。



SFP/SFP+/QSFP+の梱包内容については、SFP/SFP+/QSFP+に付属のインストレーションガイドを参照してください。

- 本体 いずれか1台
 - AT-x930-28GTX
 - AT-x930-52GTX
 - AT-x930-28GPX
 - AT-x930-52GPX

※ シャーシにはファンモジュール(AT-FAN09)とファンアダプター(AT-FAN09ADP)が1台標準装備されています。
- 19インチラックマウントキット 1式
 - ブラケット 2個
 - ブラケット用ネジ(M3×6mm 皿ネジ) 8個
- ゴム足 7個
- 電源ユニットスロット用カバーパネル 1個
 - ※ AT-x930-28GTX、AT-x930-52GTXには250W電源ユニット用カバーパネルが1個装着、800W/1200W電源ユニット用カバーパネルが1個同梱されています。
 - AT-x930-28GPX、AT-x930-52GPXには800W/1200W電源ユニット用カバーパネルが1個装着、250W電源ユニット用カバーパネルが1個同梱されています。
- 本製品をお使いの前に 1部
- 梱包内容 1部
- サポートサービスに関するご案内 1部
- 製品保証書 1部
- 英文製品情報 1部
 - ※ 日本語版マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。



本製品の電源は別売です。別途、オプションの電源ユニットをご購入ください。また、本PoE製品でPoE機能を使用する場合は、電源ユニットAT-PWR800-70またはAT-PWR1200-70をご購入ください。



41 ページ「電源ユニットを取り付ける」



62 ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

1.2 梱包内容

電源ユニット

- 電源ユニット いずれか 1 台
AT-PWR250-70・AT-PWR250-80・AT-PWR800-70・AT-PWR1200-70
- AC電源ケーブル(1.8m)(AT-PWR250-80除く) 1本
※ 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください。
※ 同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。
- 電源ケーブル抜け防止フック(AT-PWR250-70・AT-PWR800-70のみ) 1個
- 製品保証書 1部
- 英文製品情報 1部
※ 日本語版マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。
- シリアル番号シール 2枚

拡張モジュール

- AT-StackQS 1台
- 製品保証書 1部
- 英文製品情報 1部
※ 日本語版マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。
- シリアル番号シール 2枚

スเปアファンモジュール

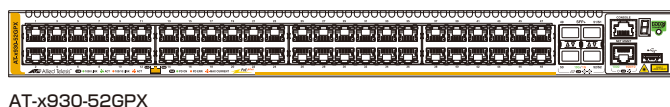
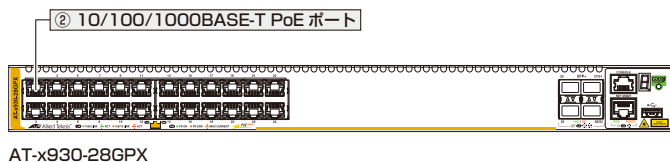
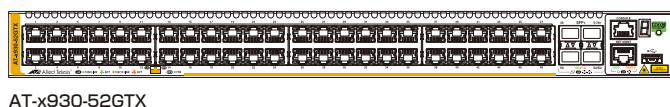
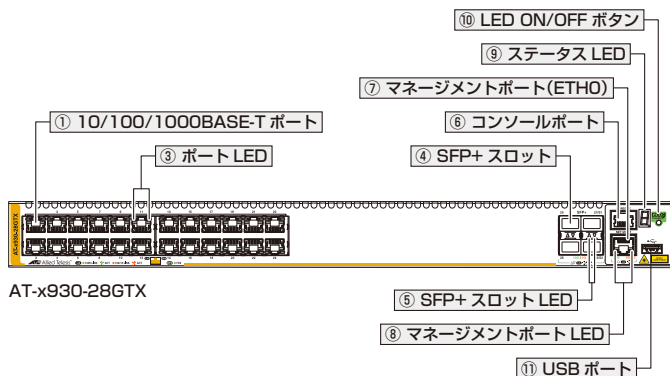
- AT-FAN09 1台
- 製品保証書 1部
- 英文製品情報 1部
※ 日本語版マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。
- シリアル番号シール 2枚

スเปアファンアダプター

- AT-FAN09ADP 1台
- 製品保証書 1部
- 英文製品情報 1部
※ 日本語版マニュアルのみに従って、正しくご使用ください。
- シリアル番号シール 2枚

1.3 各部の名称と働き

前面




① 10/100/1000BASE-T ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。

 **参照** 59ページ「ネットワーク機器を接続する」

1.3 各部の名称と働き

② 10/100/1000BASE-T PoE ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ（RJ-45）です。

接続先機器によって、使用可能なUTPケーブルのカテゴリが異なります。下表を参照してください。

—	PoE 非対応の機器	PoE 受電機器	
		IEEE 802.3af対応	IEEE 802.3at対応
10BASE-T	カテゴリ 3以上	カテゴリ 5以上	エンハンスド・カテゴリ 5以上
100BASE-TX	カテゴリ 5以上	カテゴリ 5以上	エンハンスド・カテゴリ 5以上
1000BASE-T	エンハンスド・カテゴリ 5以上		

接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。



PoE受電機器の接続には、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをおすすめします。

ヒント

参照 62ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

③ ポートLED

10/100/1000BASE-Tポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

参照 30ページ「LED表示」

④ SFP+スロット

オプション（別売）のSFP/SFP+モジュール（以下、SFP/SFP+）またはスタックモジュールを装着するスロットです。ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。



ダストカバーは、SFP/SFP+/スタックモジュールを装着するとき以外、はずさないようにしてください。

注意

参照 50ページ「SFP/SFP+を取り付ける」

参照 59ページ「ネットワーク機器を接続する」

SFP+スロットのうち末尾の2スロットは、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。通常のスイッチポートとして使用する場合は、CLIでVCS機能を無効にするか、拡張モジュールを装着して拡張モジュールのQSFP+スロットをスタックポートに指定してください。

参照 67ページ「スタックポートの選択」

⑤ SFP+スロットLED

SFP+スロットと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

参照 30ページ「LED表示」

⑥ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ（RJ-45）です。

ケーブルはオプション（別売）のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。


 参照 69ページ「コンソールを接続する」

⑦ マネージメントポート (ETH0)

管理作業専用のイーサネットポート（10/100/1000BASE-Tポート）です。


このポートを使うと、運用ネットワークを使用せずに、ファームウェアや設定ファイルを転送したり、SNMPで情報を取得したりすることができます。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ5以上のUTPケーブルを使用します。接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。通信モードは、デフォルトでオートネゴシエーションが設定されています。

 参照 59ページ「ネットワーク機器を接続する」


⑧ マネージメントポートLED

マネージメントポートの状態を表示するLEDランプです。

 参照 30ページ「LED表示」

⑨ ステータスLED

本製品全体の状態を表示する7セグメントとドットのLEDランプです。

 参照 30ページ「LED表示」


⑩ LED ON/OFF ボタン

LEDの点灯・消灯を切り替えるボタンです。

LEDによる機器監視が不要なときに、LEDを消灯させることで、電力消費を抑えて省エネの効果を得ることができます（エコLED）。

VCSによるスタック構成時には、1台のスイッチによるボタンの操作で、VCSグループの全メンバーのLED ON/OFFを制御できます。

なお、本ボタンによる点灯・消灯の切り替えは、設定ファイルには反映されません。

 参照 30ページ「LED表示」

⑪ USBポート

USBメモリーを接続するためのUSB 2.0のポートです。

ファームウェアファイルや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールに使用します。

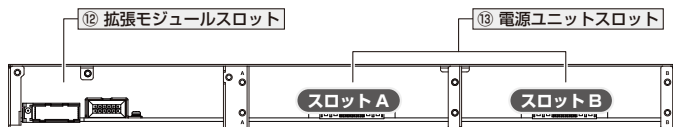


ご使用の際には、お客様の使用環境で事前に検証を行った上で導入してください。

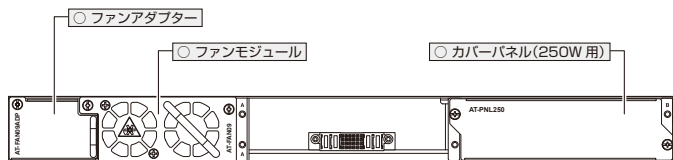
注意

1.3 各部の名称と働き

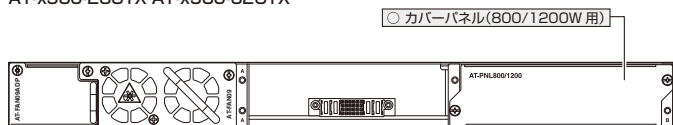
背面



モジュール/パネルを外した状態



AT-x930-28GTX・AT-x930-52GTX



AT-x930-28GPX・AT-x930-52GPX

※ ご購入時には、上図のようにファンモジュール、ファンアダプター、カバーパネルが取り付けられています。

⑫ 拡張モジュールスロット

オプション（別売）の拡張モジュール「AT-StackQS」、およびファンモジュール「AT-FAN09」を装着するスロットです。

ファンモジュールの電源は、本体から拡張モジュールを介して供給されます。拡張モジュールをお使いにならない場合には、ファンアダプター「AT-FAN09ADP」を装着してファンモジュールに電源を供給します。

ご購入時には、AT-FAN09およびAT-FAN09ADPが取り付けられています。

⑬ 電源ユニットスロット

オプション（別売）のAC電源ユニット「AT-PWR250-70」、「AT-PWR800-70」、「AT-PWR1200-70」、またはDC電源ユニット「AT-PWR250-80」を装着するスロットです。

スロットA(左側)とスロットB(右側)の2つのスロットがあります。ご購入時には、スロットB(右側)にのみカバーパネルが取り付けられています。

電源ユニットを2台装着することにより電源の冗長化が可能になります。電源ユニットはホットスワップ対応のため、冗長構成時はシステムの電源を切らずに交換できます。



注意

- ・カバーパネルは、電源ユニットを装着するとき以外、はずさないようにしてください。
- ・DC電源ユニット取り付け・取りはずしの際には、必ず取り付け・取りはずしをする電源ユニットの電源スイッチをオフにして、電源ケーブルをはずした状態で行ってください。
- ・AC電源ユニットに同梱の電源ケーブルは本製品専用です。他の電気機器では使用できませんので、ご注意ください。



41 ページ「電源ユニットを取り付ける」

側面



14 ブラケット用ネジ穴

19インチラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。ネジ穴は前面側と背面側の2か所があり、どちらにでもブラケットが取り付けられます。

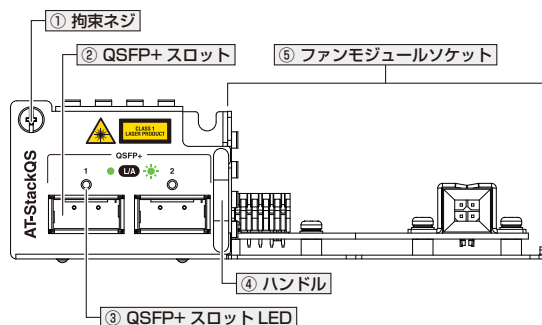


38 ページ「19インチラックに取り付ける」

1.3 各部の名称と働き

拡張モジュール

AT-StackQS



① 拘束ネジ

拡張モジュールを本体に固定するためのネジです。

② QSFP+ スロット

オプション (別売) の QSFP+ モジュール (以下、QSFP+) または スタックモジュールを装着するスロットです。ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。



ダストカバーは、QSFP+/スタックモジュールを装着するとき以外、はずさないようにしてください。



55 ページ「QSFP+ を取り付ける」



59 ページ「ネットワーク機器を接続する」

③ QSFP+ スロットLED

QSFP+ スロットと接続先の機器の通信状況を表す LED ランプです。



30 ページ「LED 表示」

④ ハンドル

拡張モジュールの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。



47 ページ「拡張モジュールを取り付ける」

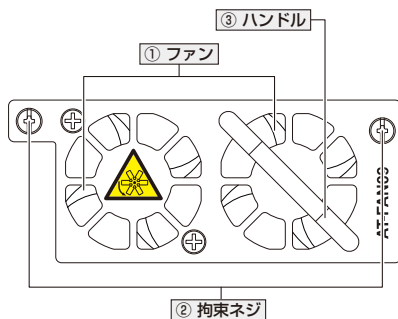
⑤ ファンモジュールソケット

ファンモジュール「AT-FAN09」を装着するためのソケットです。



45 ページ「ファンモジュールを取り付ける」

ファンモジュール



① ファン

本製品内部の熱を逃がすためのファンです。



ファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

② 拘束ネジ

ファンモジュールをシャーシに固定するためのネジです。



参照 45ページ「ファンモジュールを取り付ける」

③ ハンドル

ファンモジュールの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。



ファンモジュールは、ファンモジュールやファンアダプター、拡張モジュールを交換するとき以外、はずさないようにしてください。

注意



参照 45ページ「ファンモジュールを取り付ける」



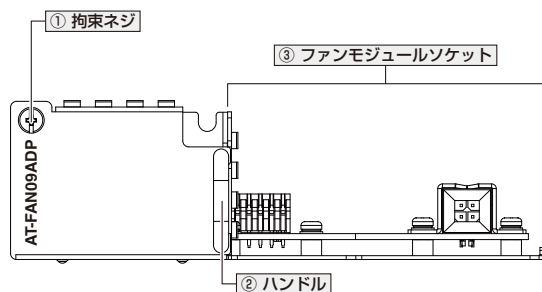
参照 47ページ「拡張モジュールを取り付ける」

1.3 各部の名称と働き

ファンアダプター

AT-FAN09ADPは、拡張モジュールを使用しない場合にファンモジュール「AT-FAN09」に電源供給するためのアダプターです。

本製品ご購入時には、AT-FAN09およびAT-FAN09ADPが取り付けられています。拡張モジュールを使用する場合は、ファンアダプターを本製品から取りはずす必要があります。



① 拘束ネジ

ファンアダプターを本体に固定するためのネジです。

② ハンドル

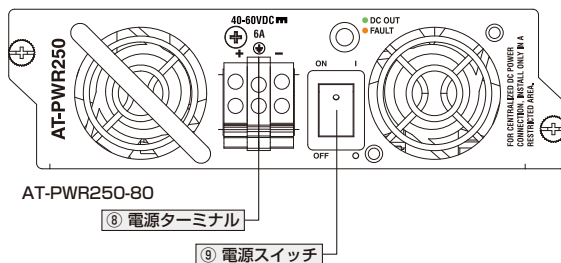
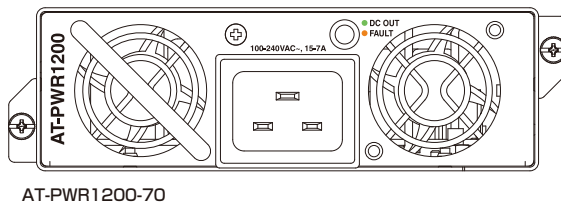
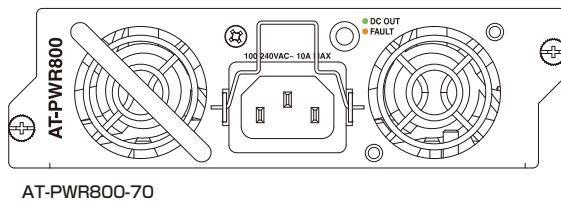
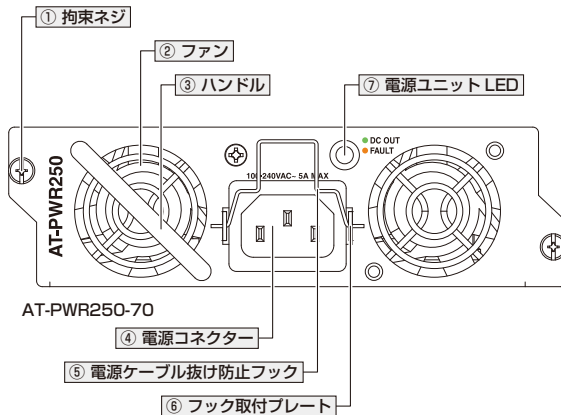
ファンアダプターの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

参照 45ページ「ファンモジュールを取り付ける」

③ ファンモジュールソケット

ファンモジュール「AT-FAN09」を装着するためのソケットです。

電源ユニット



1.3 各部の名称と働き

① 拘束ネジ

電源ユニットをシャーシに固定するためのネジです。
パネル両端に1個ずつ、計2個あります。

 参照 41ページ「電源ユニットを取り付ける」

② ファン

本製品内部の熱を逃がすためのファンです。



ファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

③ ハンドル

電源ユニットの取り付け・取りはずしの際に使用するハンドルです。

 参照 41ページ「電源ユニットを取り付ける」

④ 電源コネクタ

AC電源ケーブルを接続するためのコネクタです。

同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vでご使用の場合は、設置業者にご相談ください(電源ケーブルはAC電源ユニットにのみ同梱されています)。

 参照 71ページ「電源を入れる」

⑤ 電源ケーブル抜け防止フック (AT-PWR250-70・AT-PWR800-70のみ)

AC電源ケーブルの抜け落ちを防止する金具です。

ご購入時には、フックは取りはずされた状態で同梱されています。


 参照 71ページ「電源を入れる」

⑥ フック取付プレート (AT-PWR250-70・AT-PWR800-70のみ)

電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

⑦ 電源ユニットLED

電源ユニットの状態を表示するLEDランプです。

 参照 30ページ「LED表示」

⑧ 電源ターミナル (AT-PWR250-80のみ)

DC電源ケーブルを接続するためのターミナルです。

電源ケーブルは18AWG (断面積0.82mm²)以上の銅線 (定格電圧600V / 定格温度90℃以上)を別途ご用意ください。DC電源ユニットに電源ケーブルは同梱されていません。

 参照 71ページ「電源を入れる」

⑨ 電源スイッチ (AT-PWR250-80のみ)

電源をオン・オフするためのスイッチです。

上側 (ON) を押すと電源オン、下側 (OFF) を押すとスタンバイ状態になります。ご購入時には、電源スイッチはオフになっています。

 参照 71ページ「電源を入れる」

1.4 LED 表示

本製品の各LEDランプについて説明します。

ポート LED

AT-x930-28GTX / AT-x930-52GTX

10/100/1000BASE-T ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (左側)	緑	点灯	1000Mでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mでリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。
DPX (右側)	緑	点灯	Full Duplexでリンクが確立しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。

AT-x930-28GPX / AT-x930-52GPX

10/100/1000BASE-T PoE ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (左側)	緑	点灯	1000Mでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mでリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。
PoE (右側)	緑	点灯	受電機器に PoE 電源を供給しています。
		点灯	受電機器 (または受電機器との間) に異常が発生しています。
	橙	点滅	PoE 電源の電力使用量が最大供給電力を上回ったため、本ポートへの給電が停止しています。
		—	消灯

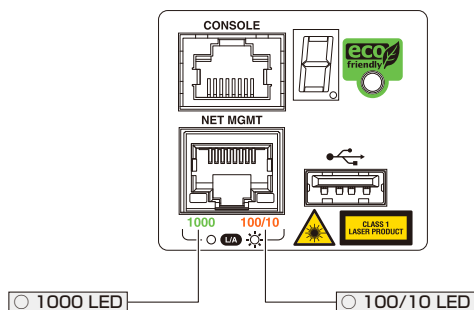
SFP+ スロット LED

SFP+スロットの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	10Gでリンクが確立しています。
		点滅	10Gでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	1000Mでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されています。

マネージメントポート LED

1000 LED、100/10 LEDの2つのLEDでマネージメントポートの状態を表します。



LED	色	状態	表示内容
L/A (1000・100/10)	緑	点灯	1000Mでリンクが確立しています。
		点滅	1000Mでパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mでリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されています。

1.4 LED表示

ステータスLED

7セグメントとドットのLEDで本製品全体の状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
7セグメントを使用した表示 (本製品への電源供給と以下の内容を表します。)			
	緑	点灯	VCS機能が無効で、単体で動作しています。
	緑	点灯	VCS機能が有効で、スタックメンバーとして動作しています。数字はスタックメンバーIDを表します。*1
	緑	点灯*2	ファンまたは内部温度に異常があります。
	緑	点灯	LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されています (LED OFF設定時でも、電源供給確認のため本LEDだけは点灯します)。 横3セグメントで、以下の状態を表します。 上: スタックメンバーのマスターとして動作しています。 中: VCS機能が無効で、単体で動作しています。 下: スタックメンバーのスレーブとして動作しています。
ドットを使用した表示			
	緑	点滅	USBメモリー接続時、USBメモリーに対してファイルの書き込み/読み出しが行われています。
		点灯	USBメモリーが接続されています。
		消灯	LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されています。 USBメモリーが接続されていません。
7セグメントとドットを使用した表示			
	緑	点灯	本製品が起動しています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

※1 ファームウェアのバージョンにより、スタック可能な最大台数など、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

※2 「F」の点灯は、VCS機能の無効を示す「0」、スタックメンバーIDを示す「1～8」のいずれかと、約1秒間ずつ交互に表示されます。



VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

QSFP+ スロット LED

拡張モジュールのQSFP+スロットの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	40Gでリンクが確立しています。
		点滅	40Gでパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。
			LED ON/OFF ボタンによってLED OFFに設定されています。

電源ユニット LED

電源ユニットの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
DC OUT FAULT	緑	点灯	電源ユニットから本製品に電源が出力されています (DC 出力電圧に異常はありません)。
	橙	点灯	DC 出力電圧に異常があります。
	—	消灯	電源ユニットから本製品に電源が供給されていません (電源スイッチがオフになっています)。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

- ゴム足による水平方向の設置
本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、同梱のゴム足を使用して設置してください。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷つきを防止したりします。
- ラックマウントキットによる 19 インチラックへの設置



・弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

・水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合にはただちに使用をやめ、弊社サポートセンターにご連絡ください。



製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめの前に、必ず4ページ「安全のために」をよくお読みください。設置については、次の点にご注意ください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手(体)でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。
- 本製品の各モジュールは、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷する恐れがありますので、取り扱いの際は、ESD リストストラップを着用し、シャーシ前面のESDソケットに接続して静電防止対策を行ってください。
- 異なる機器を接続する場合はアースを同電位にしてください。アースの電位が異なった状態で、SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブルを接続すると、ショートや故障の原因になります。アースに関してご不明な場合は、電気工事士または設備管理会社にご相談ください。

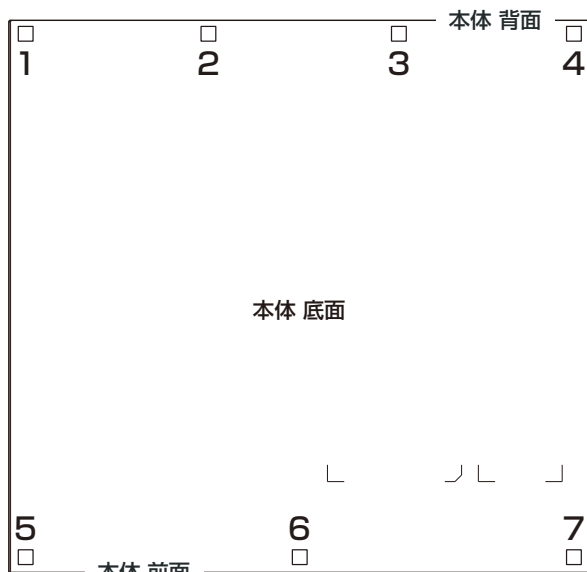
2.2 ゴム足を取り付ける

本製品には、ゴム足が同梱されています。

本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、ゴム足を取り付けてください。

ゴム足の取り付けかた

同梱のゴム足を台紙からはがし、本体底面7か所にある四角形のくぼみにゴム足を貼り付けます。

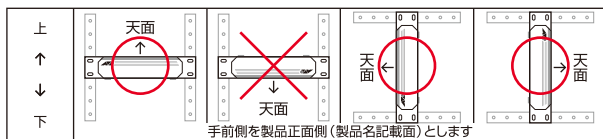


ゴム足用くぼみ

2.3 19 インチラックに取り付ける

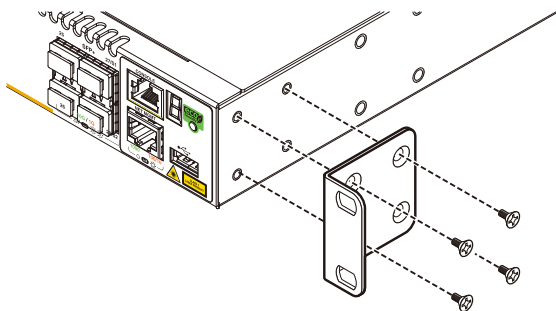
本製品は同梱の19インチラックマウントキットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

必ず下図の○の方向に設置してください。

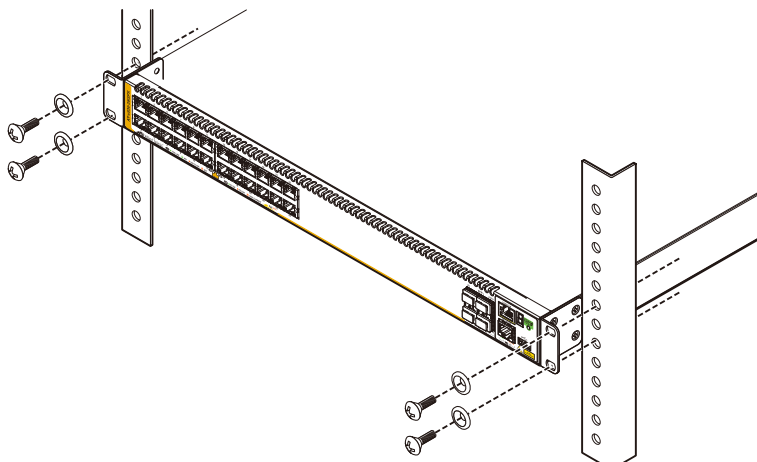


- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- 本製品を19インチラックへ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
- 本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 本製品底面にゴム足が取り付けられている場合は、ゴム足をはずします。
- 同梱のブラケット用ネジを使用して、本製品両側面にブラケットを取り付けます。片側に4個のネジを使用します。



- 4 ラックに付属のネジを使用して、19インチラックに本製品を取り付けます。



2.4 オプションを利用して設置する

本製品は、オプション（別売）の19インチ スライディング ラックマウントキット「AT-RKMT-SL01」を使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

19インチラック内で製品を前後にスライドさせることができるため、ケーブル類がおさまりやすく、保守作業がしやすい位置への設置が可能になります。

必ず下図の○の方向に設置してください。



取り付け方法については、「AT-RKMT-SL01」に付属の取扱説明書を参照してください。



- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- 本製品をオプションの19インチラックマウントキットを使用して19インチラックへ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
- 本製品へのラックマウントキットの取り付けは、ラックマウントキットの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- 本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。

2.5 電源ユニットを取り付ける

電源ユニットの取り付けかたを説明します。

電源ユニットには次の4種類があります。

- ・ AT-PWR250-70 250W対応AC電源ユニット
- ・ AT-PWR250-80 250W対応DC電源ユニット
- ・ AT-PWR800-70 800W対応AC電源ユニット
- ・ AT-PWR1200-70 1200W対応AC電源ユニット

本製品の電源は別売となっています。ご使用の環境にあわせ別途、電源ユニットをご購入のうえ、本製品に適切に取り付けてください。



警告 静電気の放電を避けるため、電源ユニット取り付け・取りはずしの際には、ESDリストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。



注意 ・ カバーパネルは、電源ユニットを装着するとき以外、はずさないようにしてください。また、電源ユニットを取りはずした状態で保管したり移送したりする場合に必要ですので、大切に保管してください。

・ 電源ユニットを抜き差しする場合は、必ず抜き差しする電源ユニットの電源をオフにしてください。また、電源ユニットを抜き差しする場合は、電源ユニットLEDが完全に消灯したことを確認してから、再度取り付けるようにしてください。



ヒント 電源ユニットはホットスワップ対応のため、本体の電源（電源ユニット1台）がオンの状態で、リダンダントの電源ユニットの取り付け・取りはずしができます。

2.5 電源ユニットを取り付ける

電源ユニットを2台装着することにより電源の冗長化が可能になります。電源ユニットを2台装着する際は、同じ種類の電源ユニットをご用意ください。異なる種類の電源ユニットを装着することはできません。

電源ユニット		AT-x930-28GTX	AT-x930-52GTX	AT-x930-28GPX	AT-x930-52GPX
AT-PWR250-70	1台	◎	◎	○*	○*
	2台	◎	◎	○*	○*
AT-PWR250-80	1台	◎	◎	○*	○*
	2台	◎	◎	○*	○*
AT-PWR800-70	1台	◎	◎	◎	◎
	2台	◎	◎	◎	◎
AT-PWR1200-70	1台	◎	◎	◎	◎
	2台	◎	◎	◎	◎

※ PoE給電はサポート対象外となります。

 64ページ「電源ユニット別による受電機器の接続可能数」

電源ユニットの取り付け

カバーパネルの交換



電源ユニットを1台しか使用しない場合は、空きスロットに必ず同梱のスロットカバーパネルを取り付けてください。取り付けないと本製品内部の通気が適切に行われません。



スロットAとスロットBの2つのスロットに機能的な違いはありません。どちらのスロットに装着しても電源ユニットの動作は同じです。電源ユニットを1台しか使用しない場合は、スロットAに装着することをおすすめします。

250Wの電源ユニットと800W/1200Wの電源ユニットでは、誤装着防止のため、拘束ネジの位置が異なります。

本製品には250W電源ユニットスロット用カバーパネルと、800W/1200W電源ユニットスロット用カバーパネルが付属し、ご購入時には、以下のカバーパネルが装着されています。

必要に応じて、装着する電源ユニットに適合するカバーパネルに交換してください。

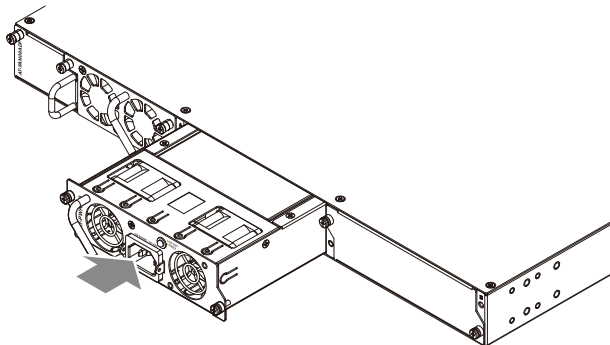
ポート	装着されたカバーパネル	カバーパネルが適合する電源ユニット
非PoE製品 ・AT-x930-28GTX ・AT-x930-52GTX	250W用 (AT-PNL250)	・AT-PWR250-70 ・AT-PWR250-80
PoE製品 ・AT-x930-28GPX ・AT-x930-52GPX	800W/1200W用 (AT-PNL800/1200)	・AT-PWR800-70 ・AT-PWR1200-70

- 1 使用しない電源ユニットスロットに装着されたカバーパネルを確認します。装着する電源ユニットが適合しない場合は、以下の手順で装着されたカバーパネルと本製品に同梱のカバーパネルを交換します。
- 2 カバーパネルの拘束ネジ (M3×2個) をドライバーで緩め、カバーパネルをはずします。カバーパネルは電源ユニットを取りはずした状態で保管したり移送したりする場合に必要ですので、大切に保管してください。
- 3 装着する電源ユニットに適合するカバーパネルを電源ユニットスロットに差し込み、カバーパネルが本製品の背面パネルと接する位置までゆっくりと押し込みます。
- 4 カバーパネルの拘束ネジを締めます。

2.5 電源ユニットを取り付ける

空のスロットに電源ユニットを装着する場合

- 1 電源ユニットを空の電源ユニットスロットに差し込み、電源ユニットの前面パネルが本製品の背面パネルと接する位置までゆっくりと押し込みます。



- 2 電源ユニットの拘束ネジを締めます。
- 3 同梱のケーブル抜け防止フックを取り付けます (AT-PWR250-80以外)。

電源ユニットを交換する場合



電源ユニットを交換する場合は、必ず交換する電源ユニットの電源をオフにしてください。AC電源ユニットは電源ケーブルをはずした状態、DC電源ユニットは電源スイッチをオフにして、電源ケーブルをはずした状態で交換作業を行ってください。

- 1 電源ユニットに挿してある電源ケーブルをはずし、電源ユニットの拘束ネジをゆるめ、ハンドルを持ってゆっくり引き抜きます。
- 2 電源ユニットを電源ユニットスロットに差し込み、電源ユニットの前面パネルが本製品の背面パネルと接する位置までゆっくりと押し込みます。
- 3 電源ユニットの拘束ネジを締めます。

電源ユニットの取りはずし

- 1 電源ケーブルを取りはずします。
- 2 電源ユニットの拘束ネジをゆるめ、ハンドルを持ってゆっくり引き抜きます。
- 3 カバーパネルを取り付けます。

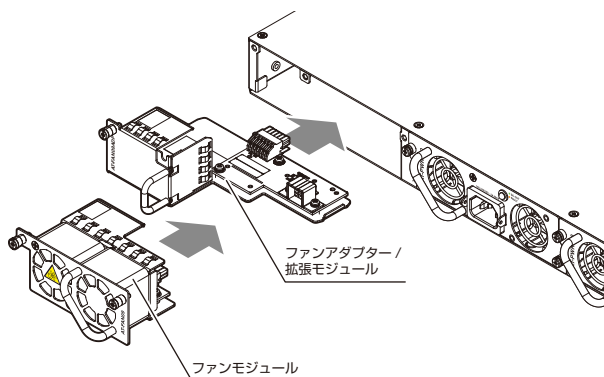
2.6 ファンモジュールを取り付ける

ファンモジュールの取り付け方を説明します。

ファンモジュールは本製品に1台標準装備されています。ファンモジュールを交換する際に、本手順を参照してください。

本製品にはファンモジュール「AT-FAN09」を使用します。

ファンモジュールの電源は、本体から拡張モジュールを介して供給されます。拡張モジュールをお使いにならない場合には、ファンアダプター「AT-FAN09ADP」を使用してファンモジュールに電源を供給します。



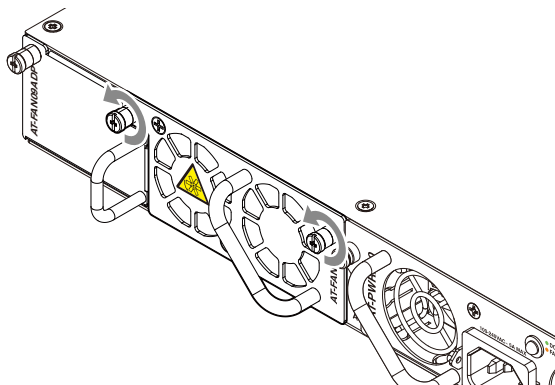
ヒント

- ・ ファンモジュールはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。ただし、ホットスワップを行う際は、長時間ファンモジュールをはずした状態にしないでください。
- ・ ファンモジュールを有効の状態のまま取りはずすと、ファンの異常としてログやトラップが出力されるため、取りはずす前にCLIでファンモジュールを無効に設定することをおすすめします。

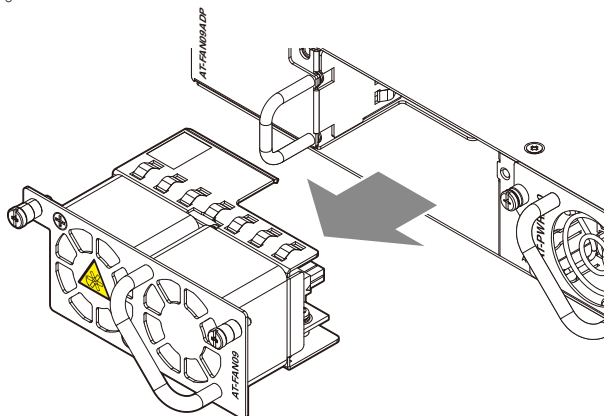
2.6 ファンモジュールを取り付ける

スペアファンモジュールの取り付けかた

- 1 装着済みのファンモジュールの拘束ネジをドライバーでゆるめます。




- 2 片手でファンアダプターの前面パネルを押さえながら、もう一方の手でファンモジュールのハンドルを持って、ファンモジュールソケットからゆっくりと引き出します。




- 3 スペアファンモジュールをソケットに差し込み、スペアファンモジュールの前面パネルがシャーシの前面パネルとそろう位置までゆっくりと押し込みます。
- 4 ドライバーで拘束ネジをしめます。
- 5 以上でスペアファンモジュールの取り付けが完了しました。

2.7 拡張モジュールを取り付ける

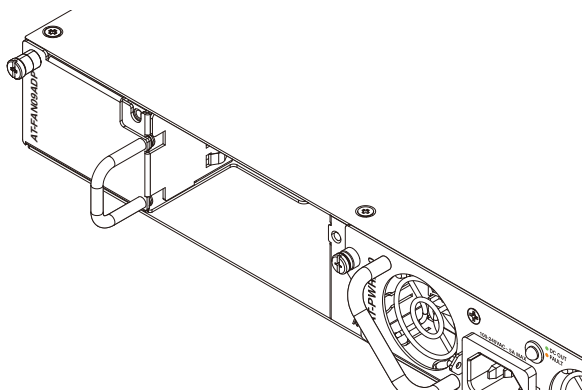
拡張モジュールの取り付けかたを説明します。

 拡張モジュールを装着していない空きスロットには、本体付属のファンアダプターを取り付けるようにしてください。

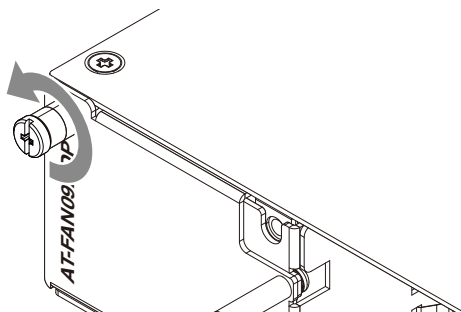
 ヒント 拡張モジュールはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。ただし、ホットスワップを行う際は、長時間、拡張モジュールおよびファンモジュールをはずした状態にしないでください。また、ホットスワップを行う際は、拡張モジュールに装着されたスタックモジュールを取りはずしてください。

装着済みのファンアダプター「AT-FAN09ADP」から拡張モジュール「AT-StackQS」に交換する場合を例に説明します。ファンアダプターを交換する場合は、以下の手順の「拡張モジュール」を「スペアファンアダプター」に読み替えてください。

- 1 46ページの「スペアファンモジュールの取り付けかた」の手順1～2を参考に、装着済みのファンモジュールをはずします。

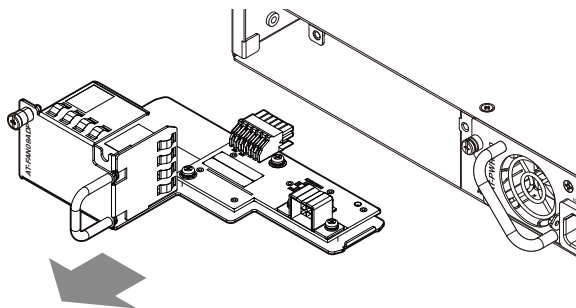


- 2 装着済みのファンアダプターの前面パネル左側にある拘束ネジをドライバーでゆるめます。



2.7 拡張モジュールを取り付ける

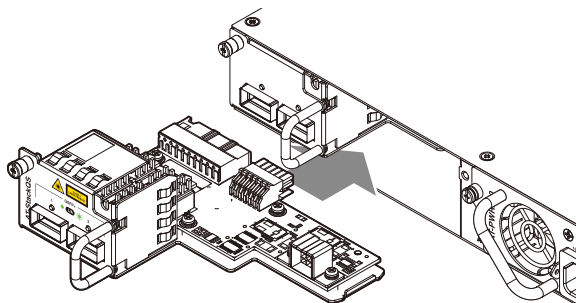
- 3 装着済みのファンアダプターのハンドルを持って、ゆっくりと引き出します。



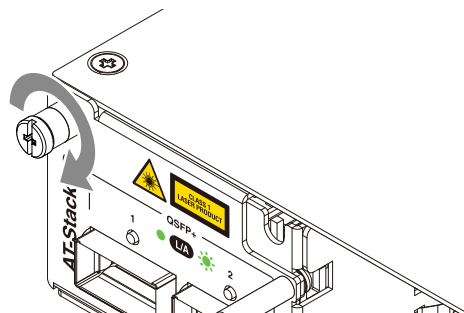
- 4 装着する拡張モジュールを拡張モジュールスロットに差し込み、前面パネルがシャーシの前面パネルとそろそろ位置までゆっくりと押し込みます。



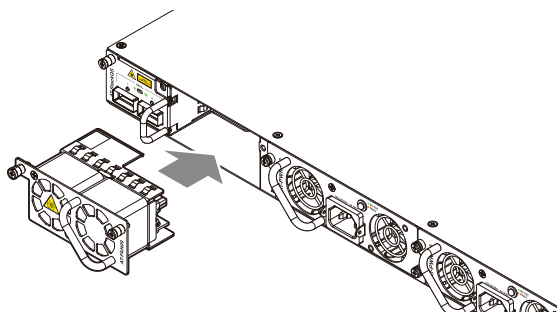
注意 ボード部分には手を触れず、拡張モジュールの前面パネルおよびハンドルを持って作業してください。差し込むときに、ボード部分をスロットのネジ穴などに当てないように注意してください。



- 5 ドライバーで拘束ネジをしめます。



- 6 46ページの「スペアファンモジュールの取り付けかた」の手順3～4を参考に、ファンモジュールを拡張モジュールのファンモジュールソケットに取り付けます。



- 7 以上で拡張モジュールの取り付けが完了しました。

2.8 SFP/SFP+ を取り付ける

SFP/SFP+、20G スタックモジュールの取り付け方を説明します。

SFP/SFP+、スタックモジュールのインストレーションガイドも合わせてご覧ください。

本製品にはオプション(別売)で以下のSFP/SFP+が用意されています。

SFPモジュール	
AT-SPTXa	1000BASE-T (RJ-45)
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPZX80	1000M SMF (80km) (2連LC)
AT-SPBDM-A・AT-SPBDM-B	1000M MMF (550m) (LC)
AT-SPBD10-13・AT-SPBD10-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD40-13/I・AT-SPBD40-14/I	1000M SMF (40km) (LC)
AT-SPBD80-A・AT-SPBD80-B	1000M SMF (80km) (LC)
SFP+モジュール	
AT-SP10SR	10GBASE-SR (2連LC)
AT-SP10LR	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10ER40/I	10GBASE-ER (2連LC)
AT-SP10TW1	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-SP10TW3	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
AT-SP10TW7	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m)
スタックモジュール	
AT-StackXS/1.0	カッパースタックモジュール (1m)
AT-StackOP/0.3	ファイバースタックモジュール (300m)
AT-SP10SR	10GBASE-SR (2連LC)
AT-StackOP/9.0	ファイバースタックモジュール (9km)
AT-SP10LR	10GBASE-LR (2連LC)
AT-SP10ER40/I	10GBASE-ER (2連LC)



・弊社販売品以外のSFP/SFP+/スタックモジュールでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。

・AT-SPTXaによる10/100Mbps通信は未サポートです。



・SFP/SFP+/スタックモジュールの仕様については、SFP/SFP+/スタックモジュールに付属のインストレーションガイドを参照してください。

・VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック (VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

また、ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

SFP/SFP+ の取り付けかた



警告 ・ 静電気の放電を避けるため、各モジュール取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。

- ・ SFP/SFP+はクラス1レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。目に傷害を被る場合があります。
- ・ SFP+ダイレクトアタッチケーブルを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をSFP+ダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



注意 ・ SFP/SFP+スロット、およびコネクタのダストカバーは、SFP/SFP+を使用するとき以外、はずさないようにしてください。

- ・ SFP+ダイレクトアタッチケーブルは、弊社製品同士の接続のみをサポートしています。他社製品と接続する場合は、AT-SP10SR、AT-SP10LR、AT-SP10ER40/Iのいずれかを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。



ヒント ・ SFP/SFP+はホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。異なる種類(型番)のモジュールへのホットスワップも可能です。

- ・ SFP/SFP+には、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。
- ・ 本製品のSFP+スロットは、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。

初期設定でVCS機能は有効化されており、SFP+スロットはスタックポートとして動作しています。通常のスイッチポートとして使用する場合は、CLIでVCS機能を無効にするか、拡張モジュールを装着して拡張モジュールのQSFP+スロットをスタックポートに指定してください。

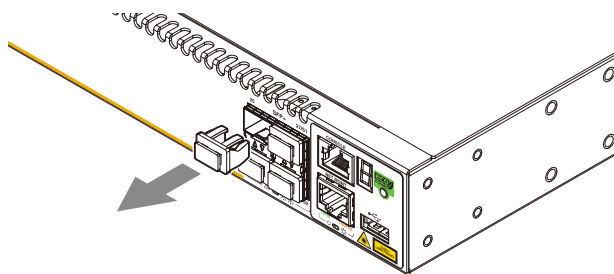
なお、VCS機能、スタックポートを設定変更するには、システムの再起動が必要になります。

2.8 SFP/SFP+ を取り付ける

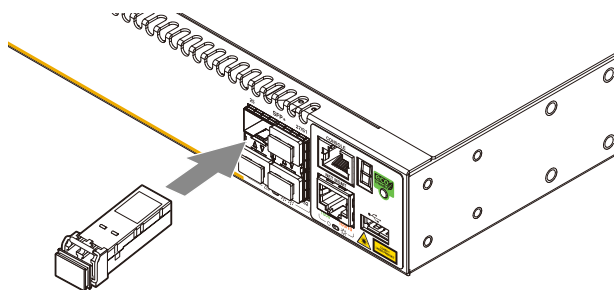
取り付け

○ SFP/SFP+/ファイバースタックモジュール

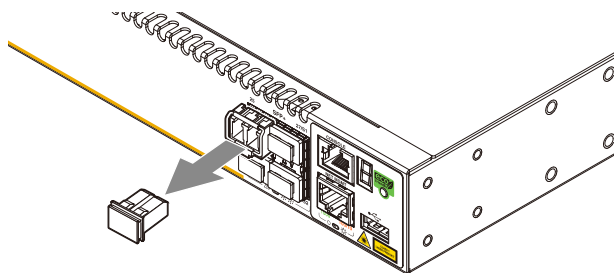
- 1 SFP+スロットに付いているダストカバーをはずします。



- 2 SFP/SFP+の両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態で差し込んでください。本製品の奇数番号のSFP+スロット（上段）はSFP/SFP+を下図で示す向きに装着してください。偶数番号のSFP+スロット（下段）ではSFP/SFP+を装着する向きが上下逆になります。

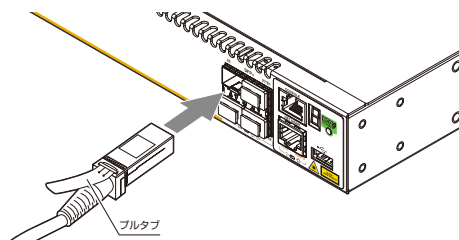


- 3** 各モジュールに付いているダストカバーをはずします。



○ SFP+ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュール

- 1** SFP+スロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2** SFP+ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュールのコネクターの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。このとき、SFP+スロットにプルタブが巻き込まれないように注意してください。



2.8 SFP/SFP+ を取り付ける

取りはずし

○ SFP/SFP+/ファイバースタックモジュール

- 1 各ケーブルをはずします。
- 2 ボタンが付いているタイプはボタンを押し、ハンドルが付いているタイプはハンドルを下げたあと、手前に引いてスロットへの固定を解除します。
- 3 SFP/SFP+/ファイバースタックモジュールの両脇を持ってスロットから引き抜きます。

○ SFP+ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュール

- 1 SFP+ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュールのコネクタ上部のプルタブを持って、SFP+スロットから手前にまっすぐ引き抜きます。
- 2 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクタをSFP+スロットから引き抜きます。

2.9 QSFP+ を取り付ける

QSFP+、80G スタックモジュールの取り付け方を説明します。

QSFP+、スタックモジュールのインストールガイドも合わせてご覧ください。

AT-StackQS QSFP+ スロット 使用可能モジュール

スタックモジュール	
AT-QSFP1CU	QSFP+ダイレクトアタッチケーブル(1m)



弊社販売品以外の QSFP+/スタックモジュールでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。



QSFP+/スタックモジュールの仕様については、QSFP+/スタックモジュールに付属のインストールガイドを参照してください。

2.9 QSFP+ を取り付ける

QSFP+ の取り付けかた



警告 ・ 静電気の放電を避けるため、各モジュール取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。

- ・ QSFP+ ダイレクトアタッチケーブルを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士を QSFP+ ダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



注意 ・ 弊社販売品以外の QSFP+ では動作保証をいたしませんのでご注意ください。

- ・ QSFP+ スロット、およびコネクタのダストカバーは、QSFP+ を使用するとき以外、はずさないようにしてください。
- ・ QSFP+ ダイレクトアタッチケーブルは、弊社製品同士の接続のみをサポートしています。



ヒント ・ QSFP+ はホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。

- ・ AT-StackQS の QSFP+ スロットは、VCS 用のスタック接続専用ポートです。CLI 上で、VCS 機能の有効・無効を設定したり、本製品前面の SFP+ スロットと、本製品に装着された AT-StackQS の QSFP+ スロットのいずれかをスタックポートとして設定したりすることができます。

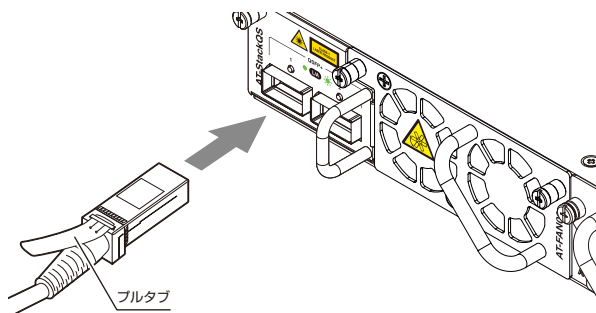
VCS 機能は初期設定で有効化されています。また、本製品に AT-StackQS が装着されている場合、初期設定では、AT-StackQS の QSFP+ スロットがスタックポートとして動作します。VCS 機能の有効・無効、スタックポートを設定変更するには、システムの再起動が必要になります。

なお、AT-StackQS の QSFP+ スロットは、スイッチポートとしては使用できません。

取り付け

○ QSFP+ダイレクトアタッチケーブル

- 1 QSFP+スロットに付いているダストカバーをはずします。
- 2 QSFP+ダイレクトアタッチケーブルのコネクタの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッと合まるまで押し込みます。このとき、QSFP+スロットにプルタブが巻き込まれないように注意してください。



2.9 QSFP+ を取り付ける

取りはずし

○ QSFP+ダイレクトアタッチケーブル

- 1 QSFP+ダイレクトアタッチケーブルのコネクタ上部のプルタブを持って、QSFP+スロットから手前にまっすぐ引き抜きます。
- 2 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクタをQSFP+スロットから引き抜きます。

2.10 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル		最大伝送距離
10/100/1000BASE-T ・AT-x930-28GTX ・AT-x930-52GTX ・AT-x930-28GPX ^{*1} ・AT-x930-52GPX ^{*1} ・AT-SPTXa ^{*2}	10BASE-T	UTPカテゴリ-3以上	100m
	100BASE-TX	UTPカテゴリ-5以上	
	1000BASE-T	UTPエンハンスト・カテゴリ-5以上	
1000BASE-SX ・AT-SPSX	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)		550m (伝送帯域500MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー		275m (伝送帯域200MHz・km時)
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPSX2	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)		1km
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー		2km
1000BASE-LX ・AT-SPLX10	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km
	GI 50/125 マルチモードファイバー ^{*3} (ITU-T G.651 準拠)		550m (伝送帯域500MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー ^{*3}		
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPLX40	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		40km
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPZX80	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		80km ^{*4}
1心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBDM-A・B	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)		550m
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー		
1000BASE-BX10 ・AT-SPBD10-13・14	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		10km
1心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBD40-13//・14//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		40km
1心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBD80-A・B	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)		80km ^{*4}

2.10 ネットワーク機器を接続する

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
10GBASE-SR ・AT-SP10SR	GI 50/125マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	66m (伝送帯域400MHz・km時)
		82m (伝送帯域500MHz・km時)
		300m (伝送帯域2000MHz・km時)
	GI 62.5/125マルチモードファイバー	26m (伝送帯域160MHz・km時)
		33m (伝送帯域200MHz・km時)
10GBASE-LR ・AT-SP10LR	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km ^{*5}
10GBASE-ER ・AT-SP10ER40//	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
SFP+ダイレクトアタッチケーブル		
	・AT-SP10TW1	1m
	・AT-SP10TW3	3m
	・AT-SP10TW7	7m
QSFP+ダイレクトアタッチケーブル		
	・AT-QSFP1CU	1m

- ※1 PoE受電機器を接続する場合の使用ケーブルは、62ページ「PoE対応の受電機器を接続する」をご覧ください。
- ※2 AT-SPTXaによる10/100Mbps通信は未サポートです。
- ※3 マルチモードファイバーを使用する際には、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。
- ※4 使用ケーブルの損失が0.25dB/km以下、分散が20ps/nm・kmの場合です。
- ※5 AT-SP10LRをスタックモジュールとして使用する場合の最大伝送距離は9kmとなります。スタック接続については、66ページ「スタック接続をする」をご覧ください。

接続のしかた



SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブルを使用する場合、ケーブルを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をSFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



- ・ SFP+/QSFP+ダイレクトアタッチケーブルはモジュールとケーブルが一体型です。接続手順については、50ページ「SFP/SFP+を取り付ける」、55ページ「QSFP+を取り付ける」をご覧ください。
- ・ AT-x930-28GPX、AT-x930-52GPXをPoE受電機器に接続する手順については、62ページ「PoE対応の受電機器を接続する」をご覧ください。

10/100/1000BASE-Tポート

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

- 1 本製品の10/100/1000BASE-TポートにUTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 2 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタを接続先機器の10/100/1000BASE-Tポートに差し込みます。

光ポート

光ファイバーケーブルは、SFP/SFP+にはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。

AT-SPBDシリーズ以外のSFP/SFP+で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

AT-SPBDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

- 1 本製品に装着したSFP/SFP+の光ポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器側の光ポートに差し込みます。

2.11 PoE 対応の受電機器を接続する

AT-x930-28GPX、AT-x930-52GPXにPoE対応の受電機器を接続します。

本製品はクラス4受電機器への給電が可能なIEEE 802.3atに対応しています。給電方式はケーブルの信号線(1,2,3,6)を使用して給電を行うオルタナティブAを採用しています。

本製品のPoE給電仕様

AT-x930-28GPX、AT-x930-52GPXのPoE給電機能は、デフォルトですべてのPoEポートで有効になっています。接続された受電機器の検出、電力クラスの識別を自動的にを行い、必要に応じて給電を開始します。

接続された機器が受電機器ではなく通常のイーサネット機器だった場合は、給電を行わず通常の10/100/1000BASE-Tポートとして動作します。

ポートへの電力の割り当て

本製品では、IEEE 802.3atで規定されている電力クラスの情報にもとづいて給電制御を行います。

たとえば、接続された受電機器がクラス1だった場合、受電機器が実際に使用する電力量に関係なく、4W分の電力が接続ポートに割り当てられます(最大4Wまでの出力に対応できるように、最大供給電力のうち4W分をあらかじめ確保するという意味です)。

IEEE 802.3at・IEEE 802.3afで規定されている電力クラス分けについては、下表をご覧ください。

接続された受電機器がクラス2の場合は7W、クラス4の場合は30Wの電力を確保します。

クラス	オプション	受電機器の最大電力	給電機器の最小出力電力
0	デフォルト	0.44 ~ 12.95W	15.4W
1	オプション	0.44 ~ 3.84W	4.0W
2	オプション	3.84W ~ 6.49W	7.0W
3	オプション	6.49W ~ 12.95W	15.4W
4	オプション	12.95W ~ 25.5W	30W

受電機器に正常に電力が供給されると本PoE製品前面のPoE LED(緑)が点灯します。

本 PoE 製品の給電仕様を以下にまとめます。

- 給電方式はケーブルの信号線(1,2,3,6) を使用して給電を行うオルタナティブAを採用
- 受電機器の検出方法は、IEEE 802.3at・IEEE 802.3af 準拠方式とプリスタンダード方式(レガシーモード)をサポート
CLIのpower-inline allow-legacy コマンドで、IEEE 802.3at・IEEE 802.3af 準拠方式で規定された検出方法のみを行うように設定変更できます(power-inline allow-legacy コマンドをno形式で実行する)
- 最大供給電力 1ポートあたり :30W
装置全体 : 720W (AT-x930-28GPXにAT-PWR800-70×2装着時)
1440W (AT-x930-52GPXにAT-PWR1200-70×2装着時)
- ポートごとに給電のプライオリティ(優先度)を3段階で設定可能
CLIのpower-inline priority コマンドで、給電優先度をlow(低)、high(高)、critical(最高)の3段階で設定できます。
PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回った場合は、給電中のポートのうち、もっとも優先順位の低いポートへの給電を停止します。
デフォルトでは、すべてのPoEポートで給電優先度が「low」に設定されています。
給電優先度の同じポート間では、ポート番号の小さいほうが優先順位が高くなります(ポート1が優先順位が一番高い)。
なお、AC電源ユニットを2台使用すると、PoEの最大供給電力が380W(AT-PWR800-70×1台)から740W(AT-PWR800-70×2台)、または、740W(AT-PWR1200-70×1台)から1440W(AT-PWR1200-70×2台)になります。
この場合、電源ユニット1台での最大供給電力を上回る給電が行われているときに、一方の電源がダウンすると、もう一方の電源で供給可能な電力値まで、優先順位の低いポートから順に給電が停止されます。
- ポートごとに出力電力の上限が設定可能
CLIのpower-inline max コマンドで、ポート単位で出力電力に任意の上限を設けることも可能です。ポートからの出力電力が上限値を超えた場合は、給電優先順位に関係なく該当ポートへの給電を停止します。
デフォルトでは、すべてのPoEポートで上限値が未設定です。未設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力が上限となります。ポートからの出力電力が、クラス1受電機器の場合4W、クラス2受電機器の場合7W、クラス3受電機器の場合15.4W、クラス4受電機器の場合30Wを超えると、該当ポートへの給電が停止されます。



ケーブルの予備線(4,5,7,8)を使用して給電を行うPoE対応機器にも対応できるよう、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをお勧めします。

2.11 PoE 対応の受電機器を接続する



注意

- 給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなおす場合は、2、3秒間をあげてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品や接続機器の故障の原因となるおそれがあります。
- 本製品を給電機器 (PSE) とカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポートのPoE給電機能を無効に設定してください (CLIのpower-inline enableコマンドをno形式で実行する)。

電源ユニット別による受電機器の接続可能数

本PoE製品はオプション (別売) の「AT-PWR800-70」または「AT-PWR1200-70」を装着することにより、受電機器への電源供給が行われます。また、ブーストモードが有効に設定されている場合、本PoE製品に「AT-PWR800-70」または「AT-PWR1200-70」を2台装着し、PoE供給電力を増やすことが可能です。ブーストモードの設定はCLIのpower-inline rps boostコマンドで設定できます (初期設定では有効に設定されています)。

下表は、本PoE製品の供給可能電力、受電機器の接続可能数を表しています。

製品名		PoE 供給電力 ^{※1}	最大給電ポート数		PoE 電源 冗長性	
本体	電源ユニット		クラス 3 (15.4W)	クラス 4 (30W)		
AT-x930-28GPX	AT-PWR800-70	× 1	380W	24	12 ^{※2}	—
		× 2	380W	24	12 ^{※2} (ブーストモード無効)	○
	720W (740W)		24 (ブーストモード有効)		—	
	AT-PWR1200-70	× 1	720W (740W)	24	24	—
		× 2	720W (740W)	24	24 (ブーストモード無効)	○
	720W (1480W)		24 (ブーストモード有効)		—	
AT-x930-52GPX	AT-PWR800-70	× 1	380W	24	12 ^{※2}	—
		× 2	380W	24 (ブーストモード無効)	12 ^{※2} (ブーストモード無効)	○
	740W		48 (ブーストモード有効)	24 ^{※2} (ブーストモード有効)	—	
	AT-PWR1200-70	× 1	740W	48	24 ^{※2}	—
		× 2	740W	48	24 ^{※2} (ブーストモード無効)	○
	1440W (1480W)		48 (ブーストモード有効)		—	

※1 実際にポートに供給される電力の総和 (括弧内は本製品および電源ユニットの最大供給能力)

※2 受電機器の電力使用量やポートの出力電力の設定によっては、同時に給電可能なポートの最大数が増加する場合があります。



- ・ AT-PWR250-70またはAT-PWR250-80を本PoE製品に装着した場合は、本PoE製品のシステムのみで電力を使用するためPoE受電機器へ電力供給は行われません。
- ・ 電源冗長性を持ったネットワークを構築する場合は、電源ユニットを2台装着し、ブーストモードを無効に設定します。初期設定ではブーストモードは有効に設定されています。ブーストモードが有効に設定されている場合、PoE電源の冗長化はできませんのでご注意ください。

ケーブル

UTPケーブルを使用します。

接続先機器によって、使用可能なUTPケーブルのカテゴリーが異なります。下表を参照してください。

—	PoE非対応の機器	PoE受電機器	
		IEEE 802.3af対応	IEEE 802.3at対応
10BASE-T	カテゴリー 3以上	カテゴリー 5以上	エンハンスド・カテゴリー 5以上
100BASE-TX	カテゴリー 5以上	カテゴリー 5以上	エンハンスド・カテゴリー 5以上
1000BASE-T	エンハンスド・カテゴリー 5以上		

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。



PoE受電機器の接続には、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをおすすめします。

接続のしかた

- 1 本PoE製品の10/100/1000BASE-T PoEポートにUTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 2 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタを接続先機器の10/100/1000BASE-T PoEポートに差し込みます。



- ・ 給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなす場合は、2、3秒間を空けてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品や接続機器の故障の原因となる恐れがあります。
- ・ 本製品を給電機器 (PSE) とカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポートのPoE給電機能を無効に設定してください。カスケードポートを指定して、power-inline enable コマンド (インターフェースモード) をno形式で実行します。

2.12 スタック接続をする

オプション(別売)のスタックモジュールを使用して、スタック接続する方法を説明します。

ここでは、VCSの物理構成における、具体的な接続手順と注意事項について説明します。VCSの初期設定から運用までの流れについては、「コマンドリファレンス」をご覧ください。



ヒント

VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」に記載されています。ご使用の際は、必ず「コマンドリファレンス」の「バーチャルシャーシスタック(VCS)」をお読みになり内容をご確認ください。

※ ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「コマンドリファレンス」でご確認ください。

対応モジュールとケーブル

本製品は、SFP+スロットを2スロット使用して双方向40Gbpsの帯域を持つスタック接続を行うことができます。

また、オプション(別売)の拡張モジュール「AT-StackQS」を使用することで、最大8台のスイッチを双方向80Gbps×2ポートの広帯域でスタック接続できます。

それぞれのスタックポートで使用可能なスタックモジュールは以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
SFP+スロット		
カッパースタックモジュール <i>AT-StackXS/1.0</i>		1m
ファイバースタックモジュール ・ <i>AT-SP10SR</i> ・ <i>AT-StackOP/0.3</i>	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠) LCコネクタ	66m (伝送帯域400MHz・km時) 82m (伝送帯域500MHz・km時) 300m (伝送帯域2000MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー LCコネクタ	26m (伝送帯域160MHz・km時) 33m (伝送帯域200MHz・km時)
ファイバースタックモジュール ・ <i>AT-SP10LR</i> ・ <i>AT-StackOP/9.0</i>	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠) LCコネクタ	9km
ファイバースタックモジュール <i>AT-SP10ER40/1</i>	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠) LCコネクタ	40km
AT-StackQS QSFP+スロット		
カッパースタックモジュール <i>AT-QSFP1CU</i>		1m

スタックポートの選択

AT-x930-28GTX・AT-x930-28GPXのポート27/28、AT-x930-52GTX・AT-x930-52GPXのポート51/52は、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。

本体前面のSFP+スロットと背面に装着される拡張モジュールのQSFP+スロットは、同時にスタックポートとして使用することはできません。

拡張モジュールが装着されていないときは、本体前面のSFP+スロットは、初期設定で、スタックポートとして動作します。

拡張モジュールが装着されたときは、拡張モジュールのQSFP+スロットがスタックポートとなり、本体前面のSFP+スロットは通常のスイッチポートとして機能します。

拡張モジュールが装着された状態で、本体前面のSFP+スロットをスタックポートにしたい場合は、CLIでstack enableコマンドにbuiltin-portsパラメーターを、拡張モジュールのQSFP+スロットをスタックポートに戻したい場合は、expansion-portsパラメーターを指定します。いずれの場合も、コマンドの反映にはシステムの再起動が必要です。



ヒント

AT-StackQSのQSFP+スロットをスイッチポートとして使用することはできません。

接続のしかた



警告

スタック接続時は、スタック内の各筐体（電源）のアースを同電位にするようにしてください。



注意



VCSグループはCentreCOM x930シリーズのみ同士で構成されるようにしてください。CentreCOM x930シリーズと他のVCSサポート製品との混在はできません。

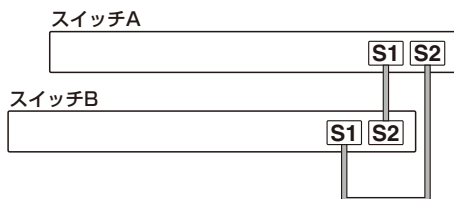


ヒント

- ・ 1つのVCSグループ内で、銅のリンクとファイバーのリンク、または、伝送距離の異なるファイバーリンクを混在させることができます。ただし、本体前面のSFP+スロットを介したリンクと、拡張モジュールのQSFP+スロットを介したリンクを混在させることはできません。必ず、VCSグループ内の機器は、帯域幅の同じリンクのみで接続してください。
- ・ スタックメンバーは、スタック接続とは別に、特殊な設定を施したスイッチポートとイーサネットケーブル（光ファイバーかUTPケーブル）を使って状態確認用の予備リンクを構成します。これをレジリエンシーリンクと呼びます。レジリエンシーリンクは状態確認にだけ使用され、ネットワークトラフィックの転送には使用されません。また、レジリエンシーリンクには、スイッチポートの代わりにマネージメントポートを使用することも可能です。銅スタックモジュール（AT-StackXS/1.0・AT-QSFP1CU）の使用時は必ずレジリエンシーリンクを使用してください。ファイバースタックモジュール使用時は任意となります。

2.12 スタック接続をする

- 1 各スイッチにスタックモジュールを取り付けます。
製品本体のSFP+スロットを使用する場合は、SFP+スロットに、20Gbps スタックモジュールを取り付けます。拡張モジュール「AT-StackQS」を使用する場合は、AT-StackQSのQSFP+スロットに、80Gbps スタックモジュールを取り付けます。
 **参照** 50ページ「SFP/SFP+を取り付ける」
 **参照** 55ページ「QSFP+を取り付ける」
- 2 各スイッチを適切なケーブルでリング状に接続し、スタックリンクを形成します。
スイッチ間を接続するときは、必ず番号の異なるスタックポート同士を接続するようにしてください。
たとえば、製品前面のSFP+スロットをスタックポートとしたスイッチA、Bの2台構成の場合は、スイッチAのスタックポート1(S1)をスイッチBのスタックポート2(S2)に、スイッチBのスタックポート1(S1)をスイッチAのスタックポート2(S2)に接続します。



スタックリンクに冗長性を持たせ、耐障害性を高めるため、通常はケーブルをリング状に接続することをおすすめします。

光ポート

AT-SP10SR、AT-StackOP/0.3、AT-SP10LR、AT-StackOP/9.0、AT-SP10ER40/Iをお使いの場合は、光ファイバーケーブルはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。一方の機器のTXをもう一方の機器のRXに、一方の機器のRXをもう一方の機器のTXに接続してください。

- 1 スタックポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器のスタックポートに差し込みます。



ヒント カッパースタックモジュールはモジュールとケーブルが一体型です。接続手順については、50ページ「SFP/SFP+を取り付ける」、55ページ「QSFP+を取り付ける」をご覧ください。

2.13 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。

本製品のコンソールポートはRJ-45コネクタを使用しています。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用して、本製品のコンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用した接続以外は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100互換端末を使用してください。



通信ソフトウェアの設定については、77ページ「コンソールターミナルを設定する」をご覧ください。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2をご使用ください。

- CentreCOM VT-Kit2 plus： マネージメントケーブルキット
以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・D-Sub 9ピン(オス)/USB

ご使用のコンソールのシリアルポート（D-Sub 9ピン）またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

- CentreCOM VT-Kit2： RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

2.13 コンソールを接続する

接続のしかた

- 1 本製品のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ-45コネクタ側を接続します。
- 2 コンソールケーブルのD-Subコネクタ側をコンソールのシリアルポートに接続します。



ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクタを用意してください。なお、CentreCOM VT-Kit2 plusはUSBポートへの接続も可能です。

ヒント

2.14 電源を入れる

AC電源のAT-PWR250-70、AT-PWR800-70、AT-PWR1200-70は電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

DC電源のAT-PWR250-80は電源ケーブル接続後、電源スイッチで電源をオンにします。

ここでは、電源に関する注意や電源の入れかたについて説明します。

以下の説明では、電源ユニットはすでに取り付けられているものとします。

 41 ページ「電源ユニットを取り付ける」



- ・ 本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の場所から取るようにしてください。
- ・ スタック接続時は、スタック内の各筐体(電源)のアースを同電位にするようにしてください。

AC 電源を使用する場合

ケーブル

AT-PWR250-70、AT-PWR800-70、AT-PWR1200-70は、次の電源ケーブルを使用できます。

- 電源ユニットに同梱されているAC電源ケーブル
- オプション(別売)のL字型コネクタ電源ケーブル(AT-PWR250-70・AT-PWR800-70のみ) AT-PWRCBL-J01R (AC100V用)



- 同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。
不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



- ・ オプション(別売)のL字型コネクタ電源ケーブルと同梱の電源ケーブル抜け防止フックは同時に使用できません(L字型コネクタ電源ケーブルは、同梱の電源ケーブルに比べて抜けにくいケーブルです)。
- ・ 電源ユニットスロットA(左側)でオプション(別売)のL字型コネクタ電源ケーブルを使用する場合は、スロットB(右側)の電源ユニット着脱時に電源ケーブルがはずれたり、はさまったりしないよう充分注意してください。

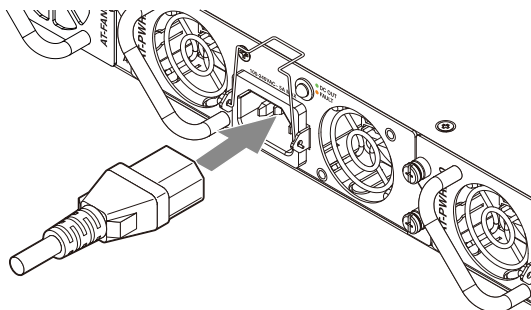
2.14 電源を入れる

接続のしかた

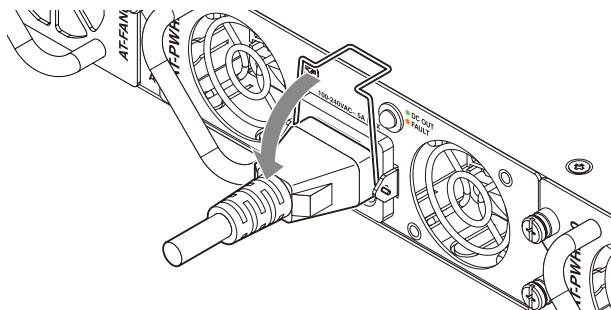


電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

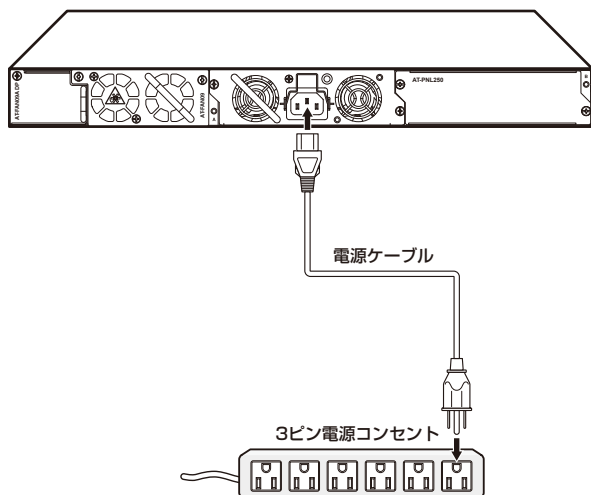
- 1 AT-PWR250-70・AT-PWR800-70をお使いの場合、電源ユニットに同梱されている電源ケーブル抜け防止フックを、電源ユニットのフック取付プレートに取り付けます。
フックの両脇を持って内側に軽く押しながら、フックの両端をプレートの穴に差し込みます。
- 2 電源ケーブルを電源コネクタに接続します。



- 3 (AT-PWR250-70・AT-PWR800-70のみ) 電源ケーブル抜け防止フックで電源ケーブルが抜けないようにロックします。



- 4 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。



- 5 電源が入ると、電源ユニットのDC OUT/FAULT LED(緑)が点灯します。

電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。

2.14 電源を入れる

DC 電源を使用する場合



必ず電源が遮断されていることを確認してから作業を行ってください。電源供給が行われている状態で結線すると、感電や機器故障の原因となります。

・ 通電中に電源ターミナルに触れないでください。電源ターミナルのネジに触れると、感電の恐れがあります。



・ DC電源ユニットの取り付けまたは交換は、訓練を受け、十分な知識を持った技術者が行ってください。

・ DC電源を使用する場合、本製品は施錠・管理された立ち入り制限区域に設置してください。

・ 電源ターミナル中央右に電源スイッチがあります。電源のオン・オフ（スタンバイ）切替には電源スイッチをご使用ください。ご購入時には、電源スイッチはオフになっています。

・ 電源ケーブルを接続する場合は、FG線を最初に接続し、電源ケーブルをはずす場合はFG線を最後にはずしてください。

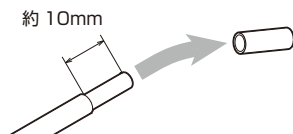
・ 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

電源ケーブルは18AWG（断面積0.82mm²）以上の銅線（定格電圧600V/定格温度90℃以上）を別途ご用意ください。本製品にDC電源ケーブルは同梱されていません。本製品にDC電源ケーブルは同梱されていません。

長さは2m以内を目安に配線してください。

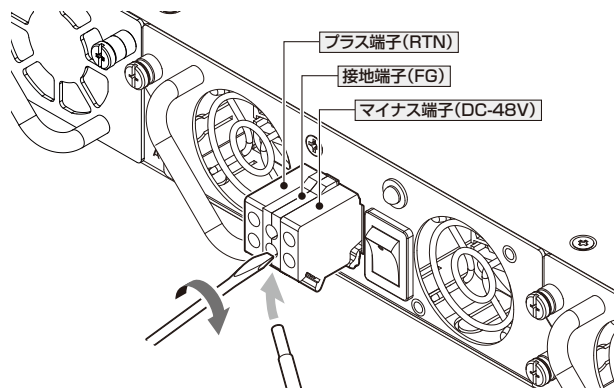
1 AT-PWR250-80の電源スイッチがオフになっていること、電源設備のブレーカーがオフになっていることを確認します。

2 ワイヤーストリッパーで電線の被覆を10mm程度はがします。



上記の推奨値以上に絶縁体をはがさないでください。また、結線後は心線が露出していないことをご確認ください。感電や機器故障、ほこりなどの付着による発火の原因となります。

- 3 電源ターミナル上部に表示されている記号を参照し、各端子の極性を確認します。電源ターミナルには3つの端子があり、左から順に、プラス端子、接地端子、マイナス端子です。
- 4 FG(フレームグランド)線を接地端子に接続します。電源ターミナル底面にある接地端子の端子穴にFG線を差し込んで、前面にあるネジをマイナスドライバーで仮締めします。



注意 電源ケーブルを接続する場合は、FG線を最初に接続し、電源ケーブルをはずす場合はFG線を最後にはずしてください。

- 5 手順4と同様に、RTN(リターン)線をプラス端子に、DC-48V線をマイナス端子に結線します。
- 6 締め付けトルク0.6~0.8Nmで、ネジを本締めします。
- 7 結線後に心線が露出していないことを確認します。
- 8 人や物の接触による電源ケーブルの脱落を防ぐため、ケーブルタイなどを用いて電源ケーブルを固定してください。
- 9 電源ケーブルを電源設備の分電盤に接続し、ブレーカーをオンにします。
- 10 AT-PWR250-80の電源スイッチをオンにします。
- 11 電源が入ると、電源ユニットのDC OUT/FAULT LED(緑)が点灯します。

電源を切る場合は、電源スイッチをオフ(スタンバイ)にします。電源を完全に切るには、電源設備のブレーカーをオフにして、電源ケーブルを分電盤からはずしてください。

2.14 電源を入れる

電源を二重化する場合

本製品は筐体内での電源の二重化が可能です。

電源を二重化する場合は、「接続のしかた」の手順を繰り返して、2台目の電源ユニットに電源を入れてください。

2本の電源ケーブルを異なる電源系統に接続することにより、どちらか一方で、サーキットブレーカーの遮断などによる商用電源の供給停止が発生しても、システムがシャットダウンするのを防ぐことができます。

通常運用時には、スロットAとスロットBの両方の電源コネクタから同時に本製品への電源供給が行われます。

一方の電源に異常が発生した場合は、もう一方の電源で電源の供給を継続します。どちらの電源に異常が発生しているかは、CLI上のshow system environment コマンド(非特権EXECモード)で確認できます。

2.15 設定の準備

コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、管理用端末から本製品の管理機構であるコマンドラインインターフェース (CLI) にアクセスして行います。

管理用端末には、次のいずれかを使用します。

- コンソールポートに接続したコンソールターミナル
- ネットワーク上のTelnetクライアント
- ネットワーク上のSecure Shell (SSH) クライアント

コンソールターミナル (通信ソフトウェア) に設定するパラメーターは次のとおりです。「エミュレーション」、「BackSpace キーの送信方法」は edit コマンド (特権 EXEC モード) のための設定です。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア
エミュレーション	VT100
Backspace キーの送信方法	Delete



Telnet/SSHを使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品にIPアドレスなどを設定しておく必要があります。本製品のご購入時にはIPアドレスが設定されていないため、必ず一度はコンソールターミナルからログインすることとなります。

また、SSHを使用する場合は、本製品のSSHサーバーを有効化するための設定も必要です。SSHサーバーの設定については「コマンドリファレンス」をご覧ください。

参照 82ページ「IPインターフェースを作成する」

参照 コマンドリファレンス / 運用・管理 / Secure Shell


```

Starting hardware/openhpi... [ OK ]
Starting hardware/timeout... [ OK ]
Starting base/inet... [ OK ]
Starting base/modules... [ OK ]
Received event modules.done
Received event board.inserted
Received event hardware.done
Starting network/startup... [ OK ]
Starting base/external-media... [ OK ]
Starting network/stackd... [ OK ]
Starting network/election.timeout... [ OK ]
Received event network.enabled

Initializing HA processes:
atmfd, auth, bgpd, cntrd, epsr, hostd, hsl
imiproxyd, irdpd, lacp, lldpd, loopprot, mstp, nsm
ospf6d, ospfd, pdmd, pim6d, pimd, ripd, ripngd
rmon, sflowd, udldd, vrrpd, imi

Received event network.initialized
07:07:40 awplus-1 VCS[2739]: No neighboring members found, unit may be in a
standalone configuration
Received event vcs.elected-master
07:07:40 awplus-1 VCS[2739]: Startup speed can be improved by adding 'no stack 1
enable' to configuration
07:07:40 awplus-1 VCS[2739]: Member 1 (eccd.6dd1.64c2) has become the Active
Master

Assigning Active Workload to HA processes:
hsl, authd, epsrd, irdpd, lacpd, lldpd, loopprot
mstp, nsm, ospfd, ripd, rmond, sflowd, vrrpd
imi, imiproxyd

Received event network.activated

Loading default configuration
Warning: flash:/default.cfg does not exist, loading factory defaults.
....

done!
Received event network.configured

awplus login:

```

4 本製品起動後、「awplus login:」プロンプトが表示されます。

2.16 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理 / システム」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理 / システム」を参照してください。

ファームウェアの更新手順についても「運用・管理 / システム」に説明があります。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ファームウェアの更新手順](#)

STEP 1 コンソールを接続する


コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2) で、本製品のコンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 [69ページ「コンソールを接続する」](#)



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 [77ページ「コンソールターミナルを設定する」](#)



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名、パスワードは大文字小文字を区別します。

awplus login: **manager** ...「manager」と入力して **[Enter]**キーを押します。

Password: **friend** ...「friend」と入力して **[Enter]**キーを押します。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン](#)



STEP 4 設定をはじめめる (コマンドモード)

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。
本製品のコマンドラインインターフェースには「コマンドモード」の概念があります。各コマンドはあらかじめ決められたモードでしか実行できないため、コマンドを実行するときは適切なモードに移動し、それからコマンドを入力することになります。

○ ログイン直後は「**非特権 EXEC モード**」です。

```
awplus login: manager [Enter]
```

```
Password: friend [Enter] (実際には表示されません)
```

```
AlliedWare Plus (TM) 5.4.2 02/11/12 16:04:45
```

```
awplus>
```

コマンドプロンプト末尾の「>」が、非特権 EXEC モードであることを示しています。

非特権 EXEC モードでは、原則として情報表示コマンド (show xxxx) の一部しか実行できません。

- 非特権 EXEC モードで enable コマンドを実行すると、「特権 EXEC モード」に移動します。

```
awplus> enable [Enter]
awplus#
```

コマンドプロンプト末尾の「#」が、特権 EXEC モードであることを示しています。特権 EXEC モードでは、すべての情報表示コマンド (show xxxx) が実行できるほか、システムの再起動や設定保存、ファイル操作など、さまざまな「実行コマンド」(コマンドの効果がその場かぎりであるコマンド。ネットワーク機器としての動作を変更する「設定コマンド」と対比してこう言う)を実行することができます。

- 特権 EXEC モードで configure terminal コマンドを実行すると、「グローバルコンフィグモード」に移動します。

```
awplus# configure terminal [Enter]
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
awplus(config)#
```

コマンドプロンプト末尾の「(config)#」が、グローバルコンフィグモードであることを示しています。

グローバルコンフィグモードは、システム全体にかかわる設定コマンドを実行するためのモードです。本解説編においては、ログインパスワードの変更やホスト名の設定、タイムゾーンの設定などをこのモードで行います。

実際には、ここに示した3つのほかにも多くのコマンドモードがあります。詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード](#)



STEP 5 各種設定を行う (コマンド入力例)

以下にコマンドの入力例を示します。

- ユーザーアカウントを作成する

権限レベル15のユーザー「zein」を作成する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username zein privilege 15 password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / ユーザー認証 / ユーザーアカウントの管理](#)

- ログインパスワードを変更する

ログイン後、managerアカウントのパスワードを変更する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username manager password xyzxyzxyz [Enter]
```

 [コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更](#)

2.16 操作の流れ

○ ホスト名を設定する

ホスト名として「myswitch」を設定する。

```
awplus(config)# hostname myswitch   
myswitch(config)#
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「awplus」から「myswitch」に変更されません。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ホスト名の設定


○ IP インターフェースを作成する

vlan1 に IP アドレス 192.168.10.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface vlan1   
myswitch(config-if)# ip address 192.168.10.1/24 
```

マネージメントポート (ETH0) に 192.168.0.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface eth0   
myswitch(config-if)# ip address 192.168.0.1/24 
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP ルーティング / IP インターフェース

デフォルトゲートウェイとして 192.168.10.5 を設定する。

```
myswitch(config-if)# exit   
myswitch(config)# ip route 0.0.0.0/0 192.168.10.5 
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP ルーティング / 経路制御

○ システム時刻を設定する

本製品は電池によってバックアップされる時計 (リアルタイムクロック) を内蔵しており、起動時には内蔵時計から現在時刻を取得してシステム時刻が再現されます。

ログなどの記録日時を正確に保つため、システム時刻は正確に合わせて運用することをおすすめします。

タイムゾーンを日本標準時 (JST。UTC より 9 時間進んでいる) に設定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch(config)# clock timezone JST plus 9 
```

システム時刻 (日付と時刻) を「2011 年 11 月 24 日 17 時 5 分 0 秒」に設定する (特権 EXEC モード)。

```
myswitch(config)# exit   
myswitch# clock set 17:05:00 24 Nov 2011 
```

NTP を利用して時刻を自動調整する場合は、NTP サーバーの設定をします。

NTP サーバーの IP アドレスを指定する (グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch# configure terminal   
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
myswitch(config)# ntp server 192.168.10.2   
Translating "192.168.10.2"... [OK]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定



STEP 6 設定を保存する

設定した内容を保存します。

ランニングコンフィグ(現在の設定内容)をスタートアップコンフィグ(起動時コンフィグ)にコピーして保存します。

copy コマンドの代わりに write file コマンドや write memory コマンドを使うこともできます。

```
myswitch# copy running-config startup-config [Enter]
```


 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / 設定の保存



STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
myswitch# exit [Enter]
```

 コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード

3

付 録

この章では、トラブル解決、本製品の仕様、製品保証について説明しています。


```

Starting base/modules... [ OK ]
Received event modules.done
Received event board.inserted
Received event hardware.done
Starting network/startup... [ OK ]
Starting base/external-media... [ OK ]
Starting network/stackd... [ OK ]
Starting network/election.timeout... [ OK ]
Received event network.enabled

Initializing HA processes:
atmfd, auth, bgpd, cntrd, epsr, hostd, hsl
imiproxyd, irddpd, lacp, lldpd, loopprot, mstp, nsm
ospf6d, ospfd, pdmd, pim6d, pimd, ripd, ripngd
rmon, sflowd, udldd, vrrpd, imi

Received event network.initialized
07:07:40 awplus-1 VCS[2739]: No neighboring members found, unit may be in a
standalone configuration
Received event vcs.elected-master
07:07:40 awplus-1 VCS[2739]: Startup speed can be improved by adding 'no stack
1 enable' to configuration
07:07:40 awplus-1 VCS[2739]: Member 1 (eccd.6dd1.64c2) has become the Active
Master

Assigning Active Workload to HA processes:
hsl, authd, epsrd, irddpd, lacpd, lldpd, loopprot
mstp, nsm, ospfd, ripd, rmond, sflowd, vrrpd
imi, imiproxyd

Received event network.activated

Loading default configuration
Warning: flash:/default.cfg does not exist, loading factory defaults.
....

done!
Received event network.configured

awplus login:

```




起動メッセージは、本製品にTelnetでログインしているときは表示されません。

ヒント

LED 表示を確認する

LEDの状態を観察してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にもどのように表示されるかを確認してください。

 [30ページ「LED表示」](#)

3.1 困ったときに

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。メモリーに保存されているログ、すなわち、bufferedログ(RAM上に保存されたログ)とpermanentログ(NVSに保存されたログ)の内容を見るには、それぞれ特権EXECモードのshow logコマンド、show log permanentコマンドを使います。



これらのコマンドは、グローバルコンフィグモードでも実行可能です。

ヒント

```
awplus# show log 

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>
-----
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: SCSI subsystem initialized
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: type=2000 audit(0.416:1): initia
lized
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: number of CFI chips: 1
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice s_src@awplus kernel: Last message 'number of CF
I chips:' repeated 1 times, suppressed by syslog-ng on awplus
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: Concatenating MTD devices:
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: (0): "fe0000000.flash"
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: (1): "fe0000000.flash"
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: into device "fe0000000.flash"
2015 Feb 17 07:07:06 kern.notice awplus kernel: 5 ofpart partitions found on MTD
device fe0000000.flash
...

```

本製品が生成するログメッセージは次の各フィールドで構成されています。

```
<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>
```

各フィールドの意味は次のとおりです。

フィールド名	説明
date	メッセージの生成日付
time	メッセージの生成時刻
facility	ファシリティ。どの機能グループに関連するメッセージかを示す(別表を参照)
severity	ログレベル。メッセージの重大さを示す(別表を参照)
program[pid]	メッセージを生成したプログラムの名前とプロセスID (PID)
message	メッセージ本文

ファシリティ（facility）には次のものがあります。

名称	説明
auth	認証サブシステム
authpriv	認証サブシステム（機密性の高いもの）
cron	定期実行デーモン（crond）
daemon	システムデーモン
ftp	ファイル転送サブシステム
kern	カーネル
lpr	プリンタースプーラーサブシステム
mail	メールサブシステム
news	ネットニュースサブシステム
syslog	syslog デーモン（syslogd）
user	ユーザプロセス
uucp	UUCPサブシステム

ログレベル（severity）には次のものがあります。

各レベルには番号と名称が付けられており、番号は小さいほど重大であることを示します。

数字	名称	説明
0	emergencies	システムが使用不能であることを示す
1	alerts	ただちに対処を要する状況であることを示す
2	critical	重大な問題が発生したことを示す
3	errors	一般的なエラーメッセージ
4	warnings	警告メッセージ
5	notices	エラーではないが、管理者の注意を要するかもしれないメッセージ
6	informational	通常運用における詳細情報
7	debugging	きわめて詳細な情報

3.1 困ったときに

トラブル例

電源をオンにしても、電源ユニットLED、ステータス(7セグメント)LEDが点灯しない

電源ユニットは正しく取り付けられていますか

 41 ページ「電源ユニットを取り付ける」

正しい電源ケーブルを使用していますか

本製品を AC100V で使用する場合は、AC 電源ユニットに同梱の電源ケーブルを使用してください。AC200V で使用する場合は、設置業者にご相談ください。

DC 電源ケーブルは 18AWG (断面積 0.82mm²) 以上の銅線 (定格電圧 600V/ 定格温度 90℃以上) を別途ご用意ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

DC 電源ユニットの電源スイッチはオンになっていますか

 71 ページ「電源を入れる」

電源ユニットLED、ステータス(7セグメント)LED点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにしたあと、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもL/A LED(緑)が点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

接続先の機器のネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

speed コマンドおよび duplex コマンド (インターフェースモード) でポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリー


10BASE-T の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー 5 以上、1000BASE-T の場合はエンハンスト・カテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを使用してください。

○ UTPケーブルのタイプ

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず常に有効です。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。

 59ページ「ネットワーク機器を接続する」

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか

○ 光ファイバーケーブルのタイプ

マルチモードファイバーの場合は、コア/クラッド径が50/125 μm (ITU-T G.651 準拠)、または62.5/125 μm のものを使用してください。

シングルモードファイバーの場合は、ITU-T G.652 準拠のものを使用してください。SFP/SFP+の種類によって、使用する光ファイバーが異なります。AT-SPSX、AT-SPSX2、AT-SPBDM-A・B、AT-SP10SRはマルチモードファイバーを、AT-SPLX40、AT-SPZX80、AT-SPBD10-13・14、AT-SPBD40-13/I・14/I、AT-SPBD80-A・B、AT-SP10LR、AT-SP10ER40/Iはシングルモードファイバーを使用してください。AT-SPLX10はマルチモードファイバーとシングルモードファイバーを使用できます。なお、AT-SPLX10の接続にマルチモードファイバーを使用する場合は、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。

○ 光ファイバーケーブルの長さ


最大伝送距離は、59ページ「ネットワーク機器を接続する」でご確認ください。光ファイバーケーブルの仕様や使用環境によって伝送距離が異なりますので、ご注意ください。

3.1 困ったときに

○ 光ファイバーケーブルは正しく接続されていますか


AT-SPBDシリーズ以外のSFP/SFP+で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

AT-SPBDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

 **参照** 59ページ「ネットワーク機器を接続する」

エコLEDに設定されていませんか

本体前面LED ON/OFFボタンの設定を確認してください。LED OFFに設定すると、ステータスLED (7セグメントLEDの横セグメント) を除くすべてのLEDが消灯します。

 **参照** 30ページ「LED表示」

PoE給電ができない

PoE給電機能が無効に設定されていませんか

show power-inlineコマンド (非特権EXECモード) でPoE給電機能の有効・無効 (Admin)を確認してください。

PoEポートの出力電力が設定された上限値を上回っていませんか

show power-inlineコマンド (非特権EXECモード) でポートの出力電力上限値 (Max (mW))を確認してください。

 **参照** 62ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回っていませんか

同時に給電できる最大ポート数については下表を参照してください。

製品名		PoE 供給電力 ^{*1}	最大給電ポート数		システム 冗長性	
本体	電源ユニット		クラス3 (15.4W)	クラス4 (30W)		
AT-x930-28GPX	AT-PWR800-70	×1	380W	24	12 ^{*2}	—
		×2	380W	24	12 ^{*2} (ブーストモード無効)	○
	720W (740W)		24 (ブーストモード有効)		—	
	AT-PWR1200-70	×1	720W (740W)	24	24	—
			×2	720W (740W)	24	24 (ブーストモード無効)
		720W (1480W)		24 (ブーストモード有効)		—

製品名		PoE 供給電力 ^{※1}	最大給電ポート数		システム 冗長性	
本体	電源ユニット		クラス3 (15.4W)	クラス4 (30W)		
AT-x930-52GPX	AT-PWR800-70	×1	380W	24	12 ^{※2}	—
		×2	380W	24 (ブーストモード無効)	12 ^{※2} (ブーストモード無効)	○
	740W		48 (ブーストモード有効)	24 ^{※2} (ブーストモード有効)	—	
	AT-PWR1200-70	×1	740W	48	24 ^{※2}	—
		×2	740W	48	24 ^{※2} (ブーストモード無効)	○
			1440W (1480W)		48 (ブーストモード有効)	—

※1 実際にポートに供給される電力の総和 (括弧内は本製品および電源ユニットの最大供給能力)

※2 受電機器の電力使用量やポートの出力電力の設定によっては、同時に給電可能なポートの最大数が増加する場合があります。

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回ると、power-inline priorityコマンド (インターフェースモード) でプライオリティを設定している場合、優先度の低い「low」のポートから、同一プライオリティの場合はポート番号の一番大きいポートから給電を停止します。

参照 62ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

正しいUTPケーブルを使用していますか

下表を参照して、正しいカテゴリのUTPケーブルを使用してください。

PoE受電機器の接続には、8線結線のストレートタイプのUTPケーブルをおすすめします。

—	PoE非対応の機器	PoE受電機器	
		IEEE 802.3af対応	IEEE 802.3at対応
10BASE-T	カテゴリ3以上	カテゴリ5以上	エンハンスド・カテゴリ5以上
100BASE-TX	カテゴリ5以上	カテゴリ5以上	エンハンスド・カテゴリ5以上
1000BASE-T		エンハンスド・カテゴリ5以上	

参照 62ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

3.1 困ったときに

コンソールターミナルに文字が入力できない

コンソールケーブルが正しく接続されていますか

 参照 69ページ「コンソールを接続する」


通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容(通信条件)は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。


また、通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9,600bpsです。

 参照 77ページ「コンソールターミナルを設定する」

コンソールターミナルで文字化けする


COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9,600bpsです。COMポートの設定が9,600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

 参照 77ページ「コンソールターミナルを設定する」

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では`[Alt]`キーを押しながら`[全角/半角]`キーを押して入力モードの切り替えを行います。

 参照 77ページ「コンソールターミナルを設定する」

3.2 仕様

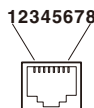
ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクター・ケーブル仕様

10/100/1000BASE-T (PoE) インターフェース

○RJ-45コネクター

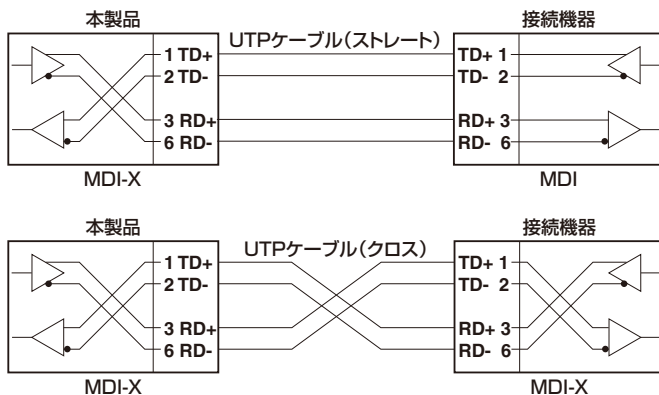
RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



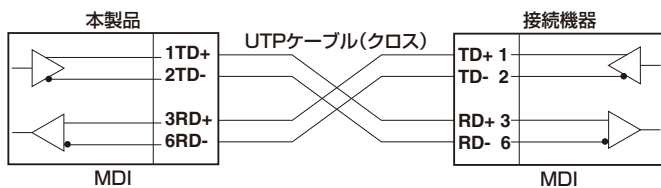
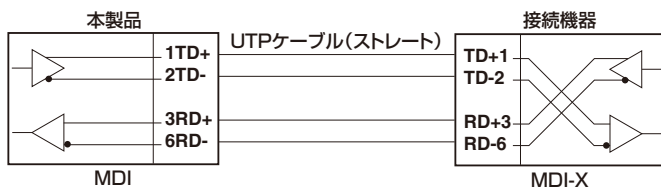
コンタクト	1000BASE-T		10BASE-T 100BASE-TX		PoE オルタナティブA
	MDI	MDI-X	MDI信号	MDI-X信号	
1	BI_DA +	BI_DB +	TD + (送信)	RD + (受信)	-V
2	BI_DA -	BI_DB -	TD - (送信)	RD - (受信)	-V
3	BI_DB +	BI_DA +	RD + (受信)	TD + (送信)	+V
4	BI_DC +	BI_DD +	未使用	未使用	未使用
5	BI_DC -	BI_DD -	未使用	未使用	未使用
6	BI_DB -	BI_DA -	RD - (受信)	TD - (送信)	+V
7	BI_DD +	BI_DC +	未使用	未使用	未使用
8	BI_DD -	BI_DC -	未使用	未使用	未使用

UTPケーブルの結線は下図のとおりです。

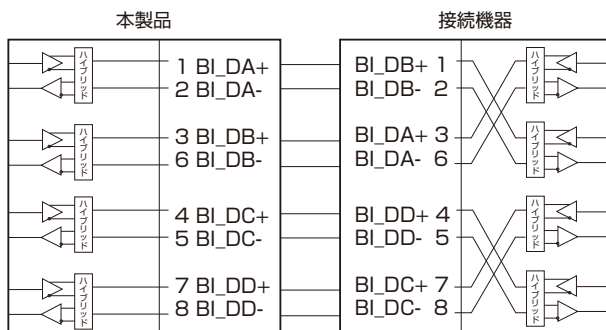
○10BASE-T/100BASE-TX



3.2 仕様



○ 1000BASE-T



RS-232 インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

USB インターフェース

USB 2.0のタイプA(メス)コネクタを使用しています。

3.2 仕様

本製品の仕様



SFP/SFP+/QSFP+の仕様については、SFP/SFP+/QSFP+に付属のインストレーションガイドを参照してください。

CentreCOM x930シリーズ(システム全体)

	AT-x930-			
	28GTX	52GTX	28GPX	52GPX
準拠規格				
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3z 1000BASE-LX/SX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3ah 1000BASE-BX10 IEEE 802.3ae 10GBASE-SR/LR/ER IEEE 802.3ba 40GBASE-CR4 IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3af Power over Ethernet IEEE 802.3at Power over Ethernet+ IEEE 802.3az Energy-Efficient Ethernet IEEE 802.1D-2004 Spanning Tree, Rapid Spanning Tree* ¹ IEEE 802.1Q-2003 GVRP IEEE 802.1Q-2005 VLAN Tagging, Multiple Spanning Tree* ² IEEE 802.1X Port Based Network Access Control IEEE 802.1AB Link Layer Discovery Protocol IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol IEEE 802.1ax-2008 Link Aggregation (static and dynamic)* ³			
適合規格				
CE				
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1			
EMI規格	VCCIクラスA			
EU RoHS 指令				
環境条件				
保管時温度	-25 ~ 70°C			
保管時湿度	95%以下(ただし、結露なきこと)			
動作時温度	0 ~ 50°C		0 ~ 45°C	
動作時湿度	90%以下(ただし、結露なきこと)			
外形寸法				
	441 (W) × 420 (D) × 44 (H) mm			
質量				
	5.1kg	5.1kg	5.1kg	5.2kg
スイッチング方式				
	ストア&フォワード			
MACアドレス登録数				
	60K			
メモリー容量				
フラッシュメモリー	256MByte			
メインメモリー	2GByte			
USB				
コネクター	タイプA(メス)			
USB	USB2.0			

サポートするMIB	
	MIB II (RFC1213) IP フォワーディングテーブルMIB (RFC2096) 拡張ブリッジMIB (RFC2674)*4 RMON MIB (RFC2819 [1,2,3,9グループ]) インターフェース拡張グループMIB (RFC2863) SNMPv3 MIB (RFC3411 ~ RFC3415) SNMPv2 MIB (RFC3418) PoE MIB (RFC3621) (AT-x930-28GPX / AT-x930-52GPXのみ) イーサネットMIB (RFC3635) 802.3 MAU MIB (RFC3636) ブリッジMIB (RFC4188) RSTP MIB (RFC4318) DISMAN ping MIB (RFC4560) LLDP MIB (IEEE 802.1AB) LLDP-MED MIB (ANSI/TIA-1057) VRRPv3 MIB (RFC6527) プライベートMIB

- ※ 表中では、K=1024
- ※ 1 IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree 包含
- ※ 2 IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree 包含
- ※ 3 IEEE 802.3ad と同等
- ※ 4 Q-BRIDGE-MIBのみサポート

3.2 仕様

電源部 (AC 電源ユニット使用時)

	AT-x930-			
	28GTX	52GTX	28GPX	52GPX
AT-PWR250-70 × 1 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	1.2A	1.3A	1.2A	1.3A
平均消費電力	77W (最大 100W)	89W (最大 120W)	77W (最大 100W)	89W (最大 120W)
平均発熱量	270kJ/h (最大 370kJ/h)	320kJ/h (最大 430kJ/h)	270kJ/h (最大 370kJ/h)	320kJ/h (最大 430kJ/h)
AT-PWR250-70 × 2 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	1.5A	1.6A	1.5A	1.6A
平均消費電力	94W (最大 130W)	100W (最大 150W)	94W (最大 130W)	100W (最大 150W)
平均発熱量	330kJ/h (最大 470kJ/h)	380kJ/h (最大 530kJ/h)	330kJ/h (最大 470kJ/h)	380kJ/h (最大 530kJ/h)
AT-PWR800-70 × 1 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	1.2A	1.4A	6.4A	6.5A
平均消費電力	82W (最大 110W)	93W (最大 120W)	290W (最大 570W)	300W (最大 580W)
平均発熱量	290kJ/h (最大 390kJ/h)	330kJ/h (最大 440kJ/h)	1000kJ/h (最大 2100kJ/h)	1000kJ/h (最大 2100kJ/h)
AT-PWR800-70 × 2 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	1.6A	1.8A	12A	12A
平均消費電力	100W (最大 140W)	110W (最大 160W)	500W (最大 1000W)	530W (最大 1100W)
平均発熱量	370kJ/h (最大 510kJ/h)	430kJ/h (最大 570kJ/h)	1800kJ/h (最大 3700kJ/h)	1900kJ/h (最大 3900kJ/h)
AT-PWR1200-70 × 1 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	1.3A	1.6A	11A	12A
平均消費電力	85W (最大 110W)	100W (最大 140W)	490W (最大 1000W)	510W (最大 1100W)
平均発熱量	300kJ/h (最大 410kJ/h)	370kJ/h (最大 490kJ/h)	1700kJ/h (最大 3700kJ/h)	1800kJ/h (最大 3900kJ/h)
AT-PWR1200-70 × 2 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	1.8A	2.1A	12A	23A
平均消費電力	110W (最大 160W)	130W (最大 180W)	520W (最大 1100W)	940W (最大 2100W)
平均発熱量	400kJ/h (最大 560kJ/h)	470kJ/h (最大 650kJ/h)	1800kJ/h (最大 3800kJ/h)	3400kJ/h (最大 7400kJ/h)

電源部 (DC 電源ユニット使用時)

	AT-x930-			
	28GTX	52GTX	28GPX	52GPX
AT-PWR250-80 × 1 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	2.8A	3.2A	2.8A	3.2A
平均消費電力	74W (最大 99W)	86W (最大 110W)	74W (最大 99W)	86W (最大 110W)
平均発熱量	260kJ/h (最大 360kJ/h)	310kJ/h (最大 410kJ/h)	260kJ/h (最大 360kJ/h)	310kJ/h (最大 410kJ/h)
AT-PWR250-80 × 2 台 使用時				
最大入力電流 (実測値)	3.5A	3.9A	3.5A	3.9A
平均消費電力	91W (最大 130W)	100W (最大 140W)	91W (最大 130W)	100W (最大 140W)
平均発熱量	320kJ/h (最大 460kJ/h)	370kJ/h (最大 510kJ/h)	320kJ/h (最大 460kJ/h)	370kJ/h (最大 510kJ/h)

PoE仕様

	AT-x930-28GPX		AT-x930-52GPX			
給電方式	オルタナティブA					
最大供給電力*	30W					
装置全体	電源ユニット	× 1個	380W	電源ユニット	× 1個	380W
		× 2個	720W (740W)		× 2個	740W
	AT-PWR1200-70	× 1個	720W (740W)	AT-PWR1200-70	× 1個	740W
		× 2個	720W (1480W)		× 2個	1440W (1480W)
1ポートあたり	30W					

※ 実際にポートに供給される電力の総和 (括弧内は本製品および電源ユニットの最大供給能力)

オプション製品の仕様

オプション製品の環境条件 (保管時温度・湿度、動作時温度・湿度) は本体シャーシの仕様
に準じます。シャーシの環境条件を参照してください。

電源ユニット

	AT-PWR250-70	AT-PWR800-70	AT-PWR1200-70	AT-PWR250-80
電源部				
定格入力電圧	AC100-240V			DC40-60V
入力電圧範囲	AC90-264V			DC40-60V
定格周波数	50/60Hz			-
定格入力電流	5.0A	10A	15A	6.0A
外形寸法	130 (W) × 250 (D) × 41 (H) mm AT-PWR1200-70のみ: +パネルガード57 (D) mm			
質量				
	1.5kg	1.8kg	2.3kg	1.5kg

ファンモジュール

	AT-FAN09
外形寸法	104 (W) × 65 (D) × 43 (H) mm
質量	150g

3.2 仕様

ファンアダプター

	<i>AT-FAN09ADP</i>
外形寸法	
	141 (W) × 97 (D) × 42 (H) mm
質量	
	140g

拡張モジュール

	<i>AT-StackQS</i>
外形寸法	
	141 (W) × 97 (D) × 42 (H) mm
質量	
	190g

3.3 製品保証

保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。保証期間内における本製品の故障の際には、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/repair/>

Tel: ☎ 0120-860332

携帯電話／PHSからは： 045-476-6218

月～金（祝・祭日を除く） 9:00～12:00 13:00～17:00

※ 本製品は保守契約必須製品です。保守契約にご加入済みの場合は、契約締結時にご案内した保守サービス窓口までご連絡ください。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ファームウェアのバージョンアップ

ファームウェアバージョンアップのご利用には保守契約へのご加入が必要です。

保守契約

保守契約の詳細につきましては、本製品をご購入いただいた代理店にご相談ください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2015 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出または「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2015年 3月 Rev.A 初版

